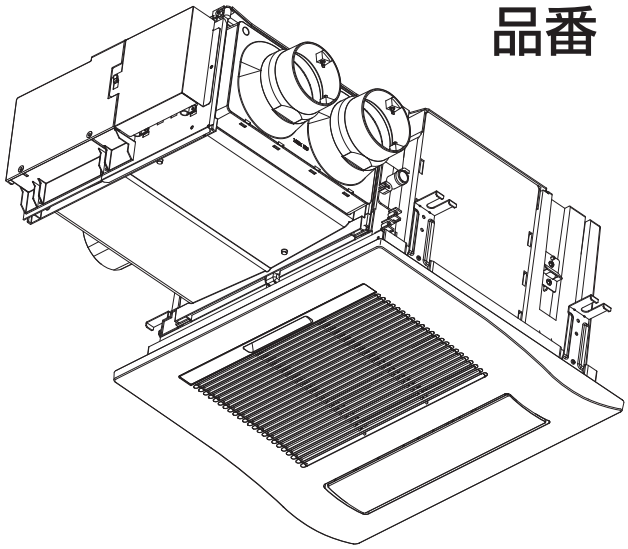
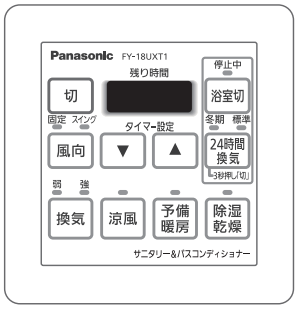
Panasonic

工事説明書

サニタリー&バスコンディショナー

品番　FY-18UXT1
（単相100V仕様）





はじめに

■この工事説明書は「サニタリー&バスコンディショナー」に必要な施工方法のみを記載しています。
バスルームの施工説明書と併せてお読みのうえ、正しく施工をおこなってください。
■ご注意いただく内容については、バスルームの施工説明書に記載の「安全上のご注意」も、施工前に必ずお読みいただき、安全に施工をおこなってください。
■操作方法を取扱説明書に基づいてお客様に説明し、保証書に必要事項を記入のうえ、取扱説明書とともに、お客様にお渡しください。
■施工後、必ず試運転調整をおこなってください。
■設置工事完了後は、裏表紙の「設置確認チェックリスト」に基づき、必ず確認をおこなってください。
■この工事説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障が生じた場合は、商品の保証を致しかねますのでご注意ください。

もくじ

安全上のご注意 ……2〜3
システム図 ……4
各部の名前と寸法……5
付属品 ……6
現場で用意してください ……7
製品施工時のお願い……8
施工手順……9
ユニットバスへの設置 ……10〜14
ドレン配管の工事……15〜16
換気ボックスの取り付け ……17〜18
ダクトの接続、副吸込グリルの取り付け …19〜20
電気工事と結線 ……21〜22
コントローラーの取り付け ……23〜24
各種設定 ……24〜26
フロントパネルの取り付け ……27〜28
試運転調整 ……29〜30
電気回路図 ……31
設置確認チェックリスト ……裏表紙

本製品の熱源は、電熱装置ではなくヒートポンプによるものです。従って本製品は、消費生活用製品安全法（消安法）で指定される「特定保守製品」には該当しません。

安全上のご注意 必ずお守りください

■設置の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ設置してください。
■設置工事完了後、試運転をおこない異常がないことを確認し、取扱説明書に基づいてお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。また、この工事説明書は、取扱説明書といっしょにお客様で保管いただくように依頼してください。

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

してはいけない内容です。	実行しなければならない内容です。

⚠警告

設置場所について

禁止

- **内釜式風呂を設置した浴室に、取り付けしない**
  （排気ガスが浴室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす原因）
- **可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置はおこなわない**
  （発火の原因）

- **工事は、この工事説明書および「電気設備技術基準」「建築基準法」「各都市の条例」に従って確実におこなう**
  （水漏れや感電、火災の原因）
- **メタルラス、ワイヤラス、または金属板張りの木造造営物に金属製ダクトが貫通する場合、メタルラス、ワイヤラス、金属板と電気的に接触しないように絶縁処理を施す**
  （感電や火災の原因）
- **コントローラーは浴室の外に取り付ける**
  （感電の原因）

電気工事について

- **配線工事、電源接続工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「電気工事士」が確実におこなう**
  （感電や火災の原因）
- **アース工事は電気設備技術基準に関連する法令・規程などに従って必ず「電気工事士」によるD種（第三種）接地工事をおこない、専用の漏電ブレーカーを設置する**
  （故障や漏電のときに、感電のおそれがあります）
- **電源ケーブルは確実に接続する**
  （火災の原因）
- **必ず交流100ボルトで使用する**
  （感電や火災の原因）

機器について

禁止

- **絶対に分解や修理、改造はしない**
  （火災・感電・けがの原因）

⚠注意

設置工事について

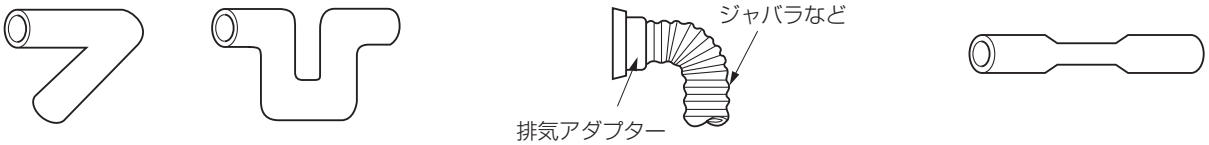
禁止

●温泉水、温泉成分を含んだ入浴剤を使用しない
（変色、腐食などにより、性能および耐久性を著しく損なう原因や、ひび割れや落下してけがをする原因）
●コード類を束ねているテープをはずすときにカッターなどの刃物を使用しない
（コード類を傷つけると、漏電・感電の原因）

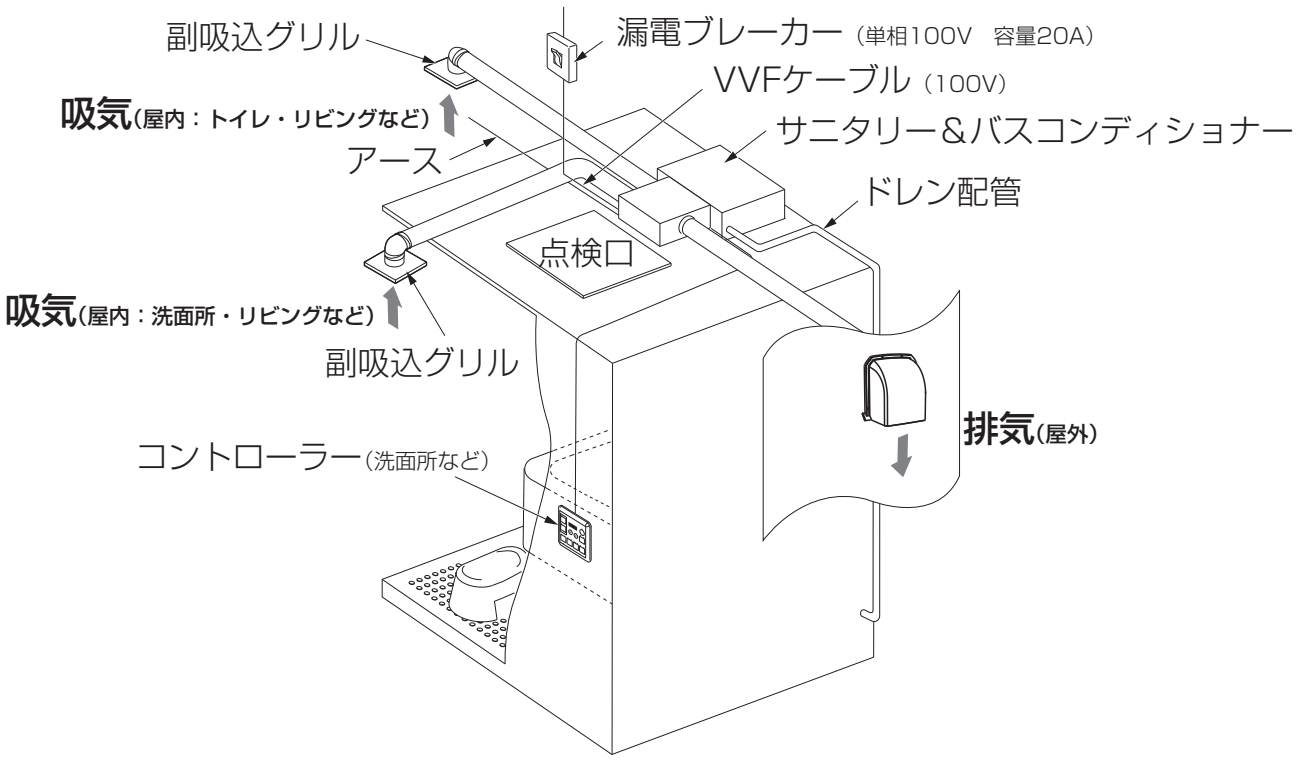
●設置は、重量に十分耐える所に確実におこない、強度不足の場合には補強する
ホールインアンカーおよび吊りボルトは、必ず本体荷重に耐えられるものを使用する
（製品本体の質量が約29kgあり、強度不足や取り付けが不完全な場合は、本体の落下により、けがの原因）
●本体は指定の方法で確実に取り付ける
●部品の取り付けは確実におこなう
●取り付け作業時には必ず手袋をはめて作業する
（けがの原因）

お願い

●一般家庭の浴室に取り付ける
●油煙の発生する場所に取り付けない
●スプレーを使う場所に取り付けない
●有機溶剤を使う場所に取り付けない
●高温になる場所（周囲温度40℃以上）に取り付けない
●専用の漏電ブレーカーは、過電流保護兼用で定格電流20A、高感度高速形（定格感度電流15mA・動作時間0.1秒以下）のものを選ぶ
●本体は、テレビ、ラジオ、無線機およびそのアンテナ線から1m以上離して施工する
●製品は、ドレン水の配管工事が必要なため、事前に建築側、ユニットバスメーカーと十分に調整する
●工事の際に、製品本体内部へ石こうボードの粉などの侵入がないようにおこなう
●製品は樹脂製ですので、ねじ締めの際は締め過ぎて製品を破損させないよう、締付トルクに十分注意する
●保守点検のため、点検口は指定の場所に指定の大きさのものを必ず設置する
●次のようなダクト・配管工事はしない
（1）極端な曲げ　（2）多数回の曲げ　（3）排気アダプターのすぐそばでの曲げ　（4）接続ダクト径を小さくする



システム図



■本製品は3室換気専用です。

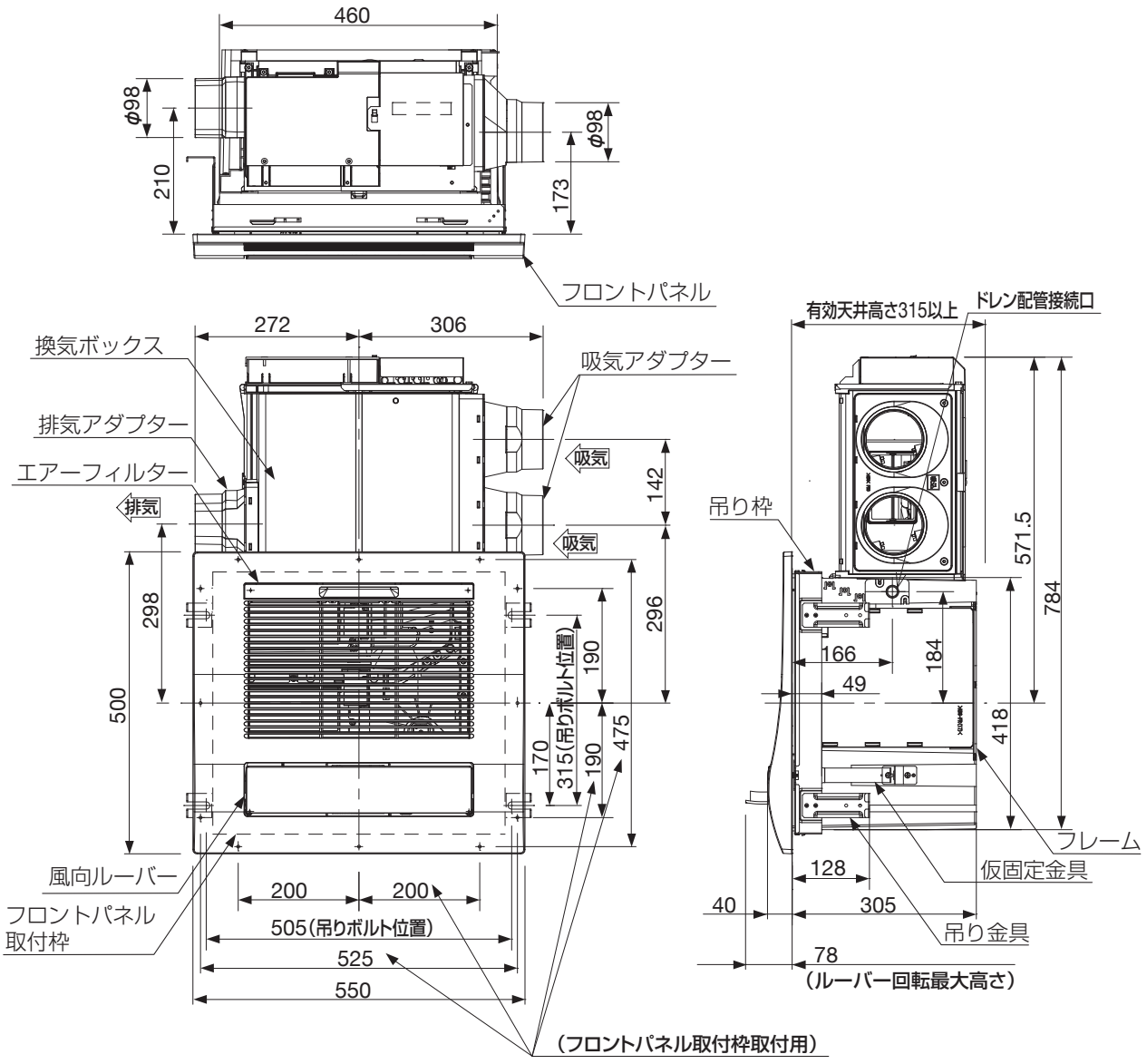
■本体設置場所：0℃～40℃
屋内温度が0℃を下回るような住居には設置しないでください。（ドレン水が凍結するおそれがあります）

■副吸込グリル（2か所）設置場所：10℃以上
ヒートポンプ式はトイレや洗面所、居室などの浴室以外の吸込空気から熱を回収し、その熱を利用して浴室の予備暖房をおこなうシステムです。戸建住宅などでトイレや洗面所の温度が10℃を下回る場合は、副吸込グリルの1か所をリビングなどの居室に設置することをおすすめします。

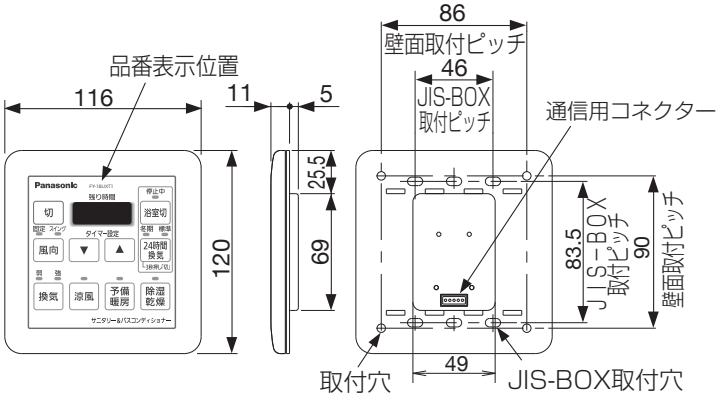
各部の名前と寸法

■本体

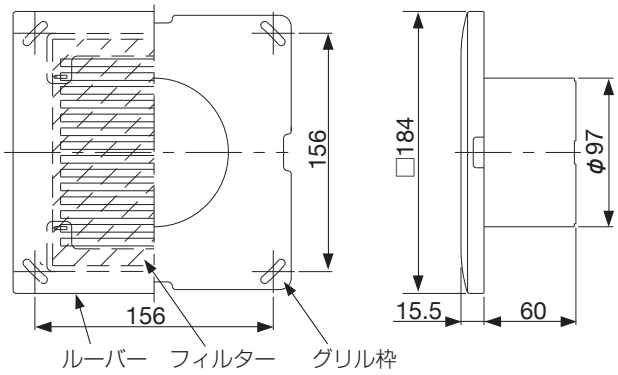
（単位:mm）



■コントローラー



■副吸込グリル



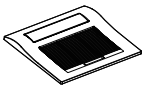
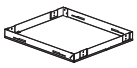
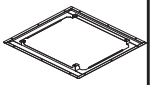
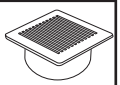
付属品

お願い
この製品専用の付属品以外は使用しないでください。

付属品セット1

付属品名	個数	
●吊り金具……	4	
●仮固定金具……	2	
●スライド固定金具……	4	
●ねじセット……	1	
・ドリルタッピンねじ…… (φ4×19) (フロントパネル取付枠用)	12	
・バインド小ねじ…… (M4×6) (吊り金具用)	8	
・トラスタッピンねじ…… (M4×12) (スライド固定金具用)	3	
・トラス小ねじ…… (M4×10) (スライド固定金具用…1、仮固定金具用…2)	3	

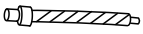
その他の付属品

付属品名	個数	
●フロントパネルセット……	1	
・フロントパネル……	1	
・トラス小ねじ…… (M4×10) (フロントパネル用)	4	
●吊り枠……	1	
●フロントパネル取付枠……	1	
●副吸込グリルセット……	2	
・副吸込グリル……	1	
・トラスタッピンねじ…… (φ4×30) (副吸込グリル用)	4	

付属品セット2

付属品名	個数	
●防振金具……	4	

付属品セット3

付属品名	個数	
●取扱説明書…… (必ずお客様にお渡しください)	1	
●工事説明書…… (必ずお客様にお渡しください)	1	
●コントローラーセット……	1	
・コントローラー……	1	
・バインド小ねじ…… (M4×35) (コントローラー用)	4	
●コントローラー用信号線…… (5m)	1	
●ドレンホース……	1	
●天井開口用パッキン(L=60)…	4	
●固定板……	4	

現場で用意してください

品　　名	仕　様　な　ど	個数	備　　考
吊ボルト	M10　または　W3/8	8本	本体吊り用
ワッシャー	M10	16個	本体吊り用
スプリングワッシャー	M10	4個	本体吊り用
ナット	M10　または　W3/8	32個	本体吊り用
漏電ブレーカー	過電流保護兼用で定格電流20A、高感度 高速形（定格電流15mA・動作時間0.1秒以下）	1個	
埋込ボックス	1個用スイッチボックス（JIS C 8340対応品） または 2個用スイッチボックス（JIS C 8340対応品）	1個	コントローラー用
はさみ金具	WN3992K020（20個入） （パナソニック（株）製）	1個	（埋込ボックス、はさみ金具のいずれか）
パイプフード	FY-MFA043同等品またはFY-MSX043 （パナソニック エコシステムズ（株）製）	1個	＊1
ドレン配管部材	「ドレン配管の工事」の項を参照	適宜	
断熱材（ドレン配管用）	厚さ10mm以上の発泡ポリエチレン	適宜	ドレン配管結露・凍結予防
ダクト	排気：断熱チューブ（Φ100）FY-KXH425 （パナソニック エコシステムズ（株）製） または、鋼管（Φ100）に断熱処理 （グラスウール16K、厚さ25mm以上） 吸気：アルミフレキダクト（Φ100）	適宜	＊2
	吸気：消音ダクト（Φ100）VB-PZ10S5V （パナソニック エコシステムズ ベンテック製）		吸気口で音が大きい場合に使用
パイプ継手	FY-PIT04 （パナソニック エコシステムズ（株）製）	適宜	
アルミテープ	幅50mm	適宜	
ソフトテープ	FY-RHS01 （パナソニック エコシステムズ（株）製）	適宜	
電源ケーブル	VVFケーブルΦ1.6またはΦ2	適宜	
アース線	銅線直径Φ1.6以上 （または断面積が2.0mm²以上）	適宜	アース工事用
アース棒		適宜	
外部換気スイッチ	WT50412、WT50422同等品 （パナソニック（株）製）	適宜	トイレや洗面所に外部換気スイッチを設置する場合
外部換気スイッチケーブル	VVFケーブルΦ1.6またはΦ2	適宜	
電動気密シャッター	FY-MSW04 （パナソニック エコシステムズ（株）製）	適宜	電動気密シャッター、給気形中間ダクトファンと連動する場合
給気形中間ダクトファン	FY-22DFS （パナソニック エコシステムズ（株）製）	適宜	
連動出力ケーブル	VVFケーブルΦ1.6またはΦ2	適宜	

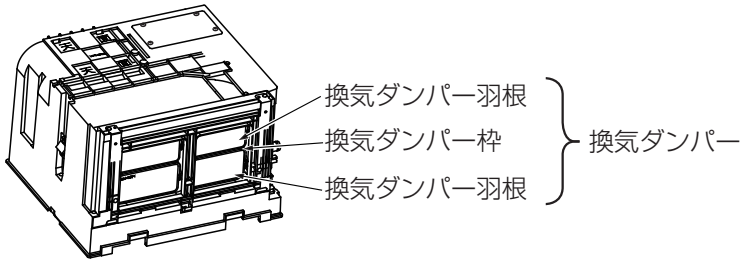
＊1：パイプフードは必ず防虫網なしを使用してください。

＊2：ダクト長の許容範囲は、設置条件によって異なります。詳細は、設置工事技術資料を参照してください。

製品施工時のお願い

製品の取り扱い

換気ダンパーを持って製品を持ち上げないでください。

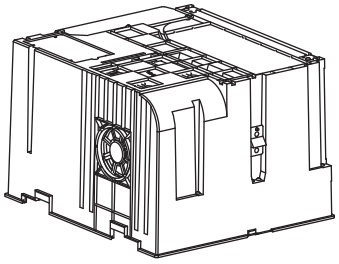


本製品をダンボールから取り出すときや施工するときに、換気ダンパーを持って持ち上げないでください。

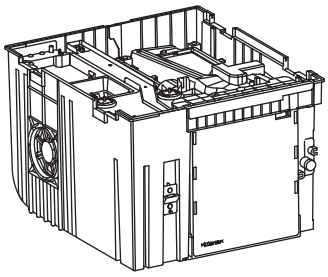
製品を逆さまにしたり、横置きにしないでください。

本製品は圧縮機を搭載していますので、逆さまにしたり横置きにすると、故障の原因となります。万が一逆さまや横置きにしてしまった場合は、正しい向きで1日以上放置したあと、施工をするようにしてください。

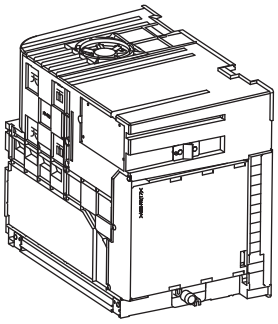
○ 正しい向き



× 逆さま



× 横置き

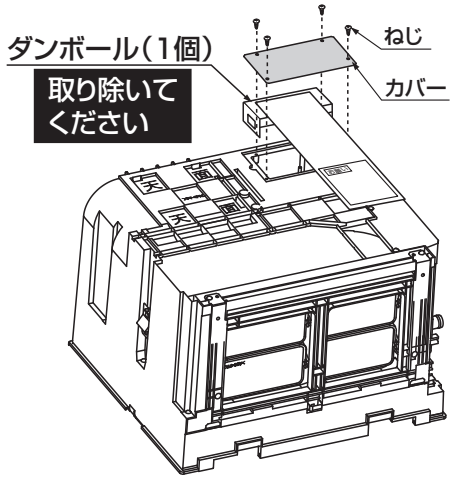


緩衝材（ダンボール）について

施工前に、ダンボール（1個）を必ず取り除いてください。

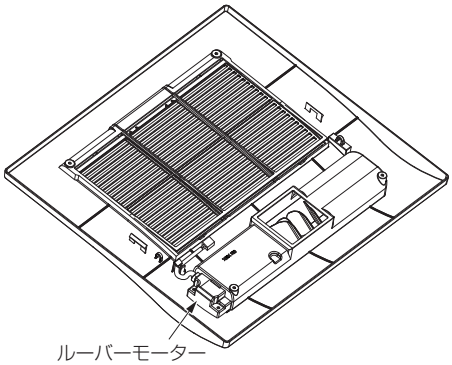
本製品は輸送時の故障防止のために製品内部にダンボール（1個）が組み込まれています。
施工前に必ず取り除いてください。
ダンボール（1個）を取り除かない場合、
異常音や振動の原因になります。

<手順>
①カバーのねじ(4本)を取りはずしてください。
②カバーを取りはずしてください。
③ダンボール（1個）を取り除いてください。
④カバーとねじを①、②と逆の手順で取り付けて元の状態に戻してください。



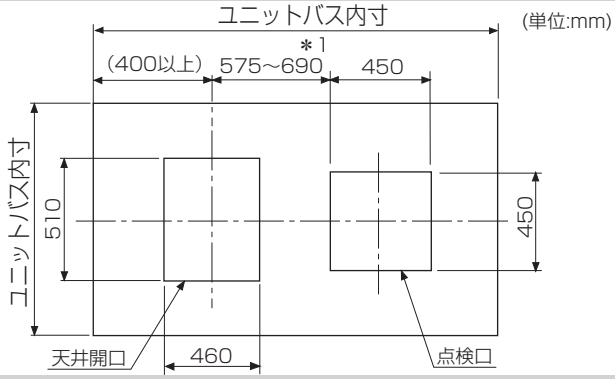
フロントパネルの取り扱い

・取り付けるまで梱包に入れたまま、ホコリや水に注意して平らな場所に保管してください。
（破損・そり・たわみやルーバーモーター故障の原因になることがあります）

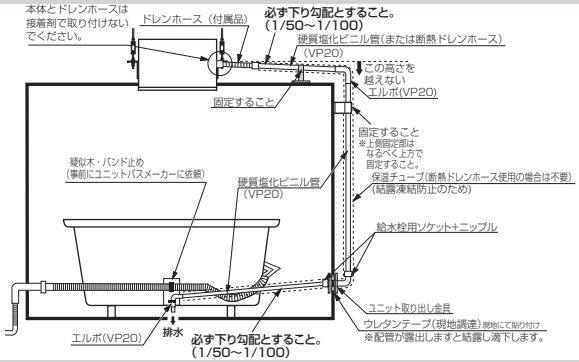


施工手順

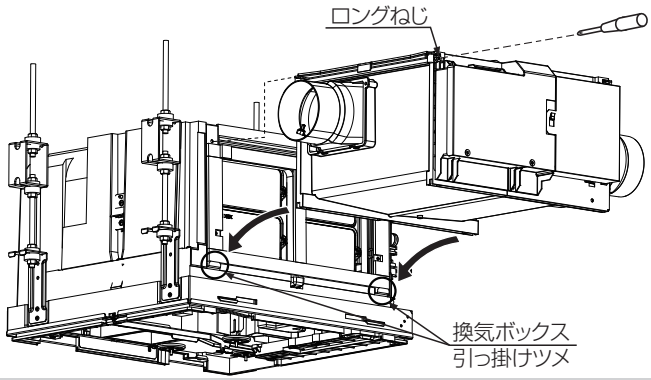
ユニットバスへの設置（☞ 10~14ページ）



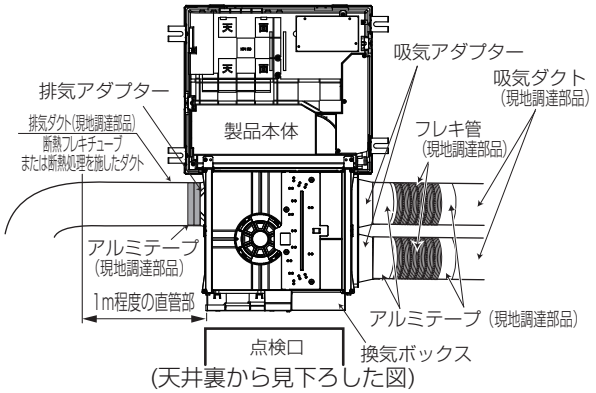
ドレン配管の工事（☞ 15~16ページ）



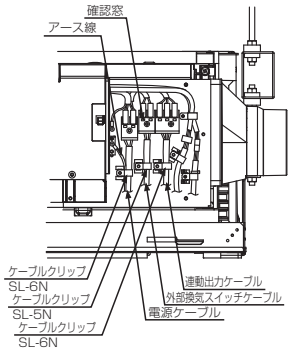
換気ボックスの取り付け（☞ 17~18ページ）



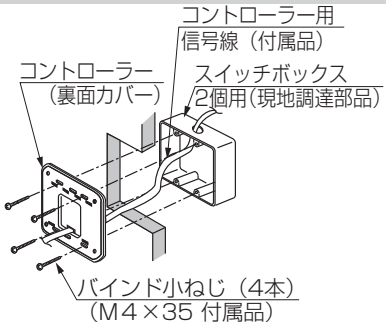
ダクトの接続・副吸込グリルの取り付け（☞ 19~20ページ）



電気工事と結線（☞ 21~22ページ）

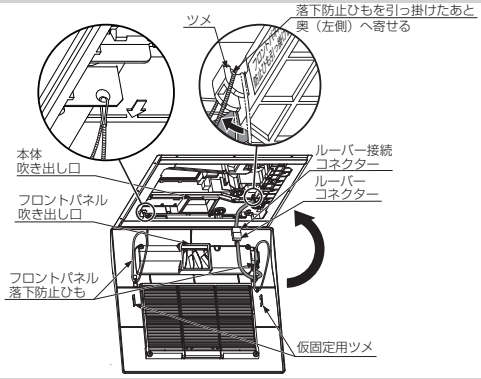


コントローラーの取り付け・各種設定（☞ 23~26ページ）



※各種設定終了後、ドレン排水確認

フロントパネルの取り付け（☞ 27~28ページ）



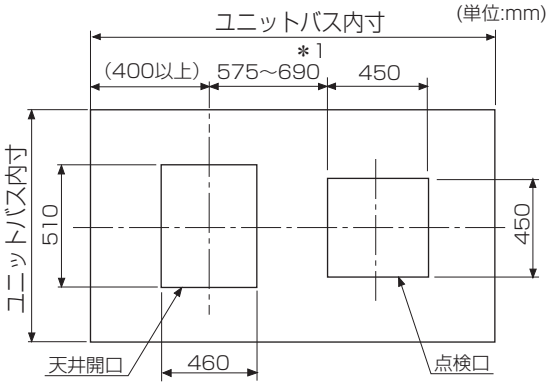
試運転調整（☞ 29~30ページ）

ユニットバスへの設置

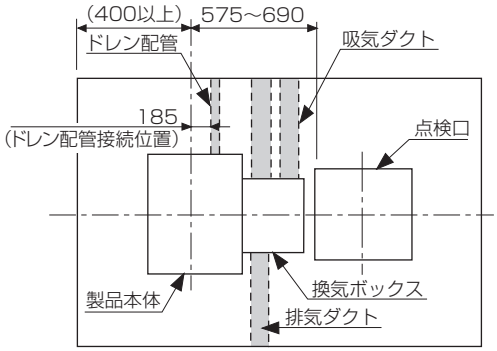
設置場所の確認

●ユニットバスへの設置としてください。（在来工法の浴室には設置しない）
●本製品は1.25坪タイプのユニットバスサイズまで設置可能です。
●下記の浴室では予備暖房運転において、浴室温度が十分に上昇しません。
・ユニットバス以外
・浴室の容積が大きい
・窓が大きい
・タイルや大理石貼り
・浴室の密閉性や断熱性が悪い
●本製品は吊り施工タイプです。（天井面への置き施工はできません）
●ユニットバスの天井はフラットなタイプをお選びください。
フラットな天井以外のユニットバスに設置する場合は事前にユニットバスメーカーに寸法を確認してください。
下記のタイプには設置できない場合があります。
・天井が傾斜している。
・ドーム形状になっている。
・プラスチック一体成型などの天井で、天井コーナーに大きなRが付いている。
●天井中央部の補強用リブは (天井厚み＋リブ高さ) ＜ 60mm としてください。
（換気ボックスが取り付けできない場合があります）
●天井材の強度が低い場合は、開口部の補強をしてください。
（強度についてはユニットバスメーカーに確認してください）
●建物の梁の強度が強いところに吊りボルトを施工してください。
●ドレン配管を通す側のユニットバスから壁面までの距離は、65mm以上必要です。
●ユニットバスのドアは給気口付きのものをご使用ください。
●物干しバー収納用受部材の位置に補強板を裏打ちしてください。
●天井の状態により、フロントパネルと天井面にすき間ができることがあります。
●戸建住宅などでトイレや洗面所の温度が10℃を下回る場合は、副吸込グリルの1か所をリビングなどの居室に設置することをおすすめします。また、副吸込グリルをリビングなどの居室に設置する場合は、副吸込グリルからの騒音低減のため吸気ダクトに消音ダクト（VB-PZ10S5V：パナソニック エコシステムズ ベンテック製）を接続して設置することをおすすめします。

浴室天井開口位置と寸法



●天井開口は460×510mmの大きさとしてください。
●点検口は450×450mmの大きさを確保してください。
点検口が上記の大きさより小さい場合は、本体の設置前に点検口から換気ボックスが入るか確認してください。
＊1 天井開口中心から点検口までの＊1寸法は施工および保守作業上、左記の寸法としてください。
また＊1寸法は690mm以上になると、ドレン配管接続などが困難になります。

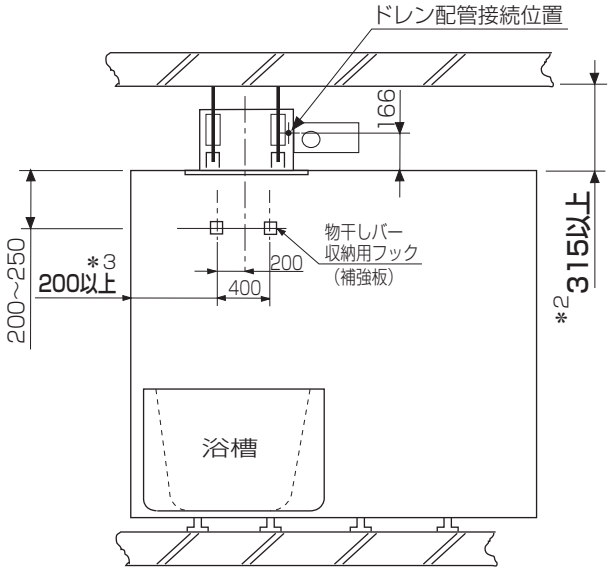


(天井裏から見下ろした図)

●ダクトやドレン配管は、点検口の開口部を避けて施工してください。保守作業に支障をきたします。

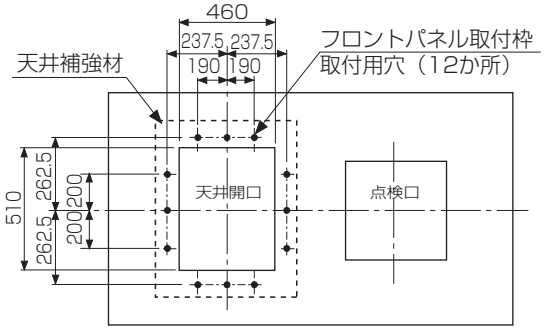
お願い

排気ダクトを曲げる場合は、換気ボックスから1m程度の直管部を設けたあとに曲げてください



●機器の設置は、ユニットバス天井下面から上部スラブ天井までの寸法が315mm以上必要です。（＊2）
この範囲に障害物がないことを確認してください。
また、ダクトやドレン配管の必要スペースにも障害物がないことを確認してください。

●ユニットバス壁面から、物干しバーまでのまでの距離は200mm以上確保してください。（＊3）
ハンガーが吊るせなくなるおそれがあります。
●物干しバーの設置位置は天井開口のセンターに対して400mmピッチとすることをおすすめします。
※物干しバー、ダクトなどは付属品ではありません。



(浴室内から見上げた図)

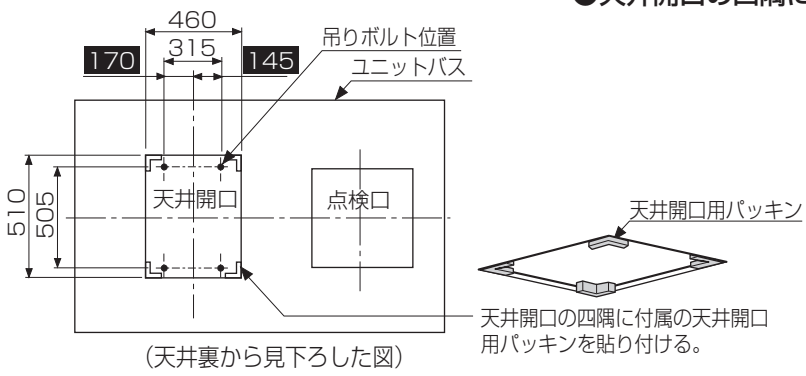
(野縁などの天井補強材を取り付ける場合)
●天井補強材の高さ（ユニットバス天井下面から天井補強材上面までの高さ）は60mm以下としてください。
換気ボックスが取り付かなくなります。
●ユニットバス天井面にフロントパネル取付枠取り付け用の穴（12か所）を開けてください。
※天井補強材を取り付けず、付属のドリルタッピンねじを使用してユニットバス天井面に直接フロントパネル取付枠を取り付ける場合は、取付用穴（12か所）は必要ありません。（☞ 27~28ページ）

ユニットバスへの設置(続き)

吊りボルト位置

(単位：mm)

●ユニットバスの設置位置をよく確認してから吊りボルトを左図の位置に設置してください。
●天井開口の四隅に付属の天井開口用パッキンを貼り付けてください。



(天井裏から見下ろした図)

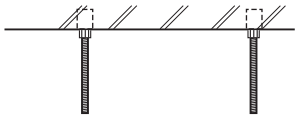
※吊りボルト位置は天井開口に対してセンター振り分けではありません。

⚠注意

●**設置は、重量に十分耐える所に確実におこない、強度不足の場合には補強する。ホールインアンカーおよびレースウェイ、梁への吊りボルト固定は、必ず本体荷重に耐えられるものを使用する**
(製品本体の質量が約29kgあり、強度不足や取り付けが不完全な場合は、本体の落下により、けがの原因)

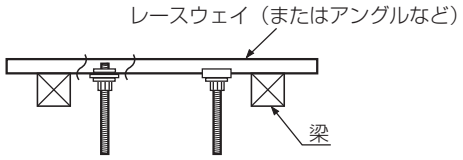
吊りボルトの施工例

●ホールインアンカーを上部スラブ面に埋設する場合

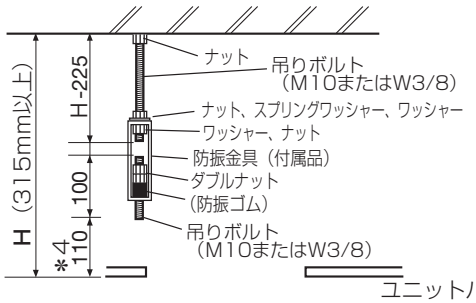


※吊りボルトの位置調整が必要な場合は、レースウェイなどを用いて調整してください。

●梁を用いて固定する場合



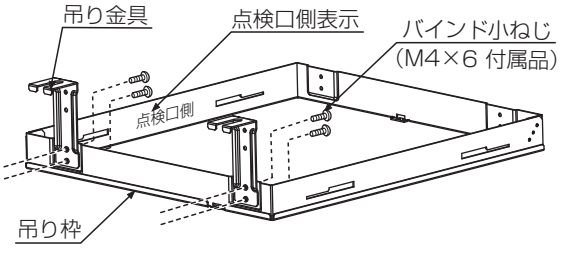
吊りボルトの長さ



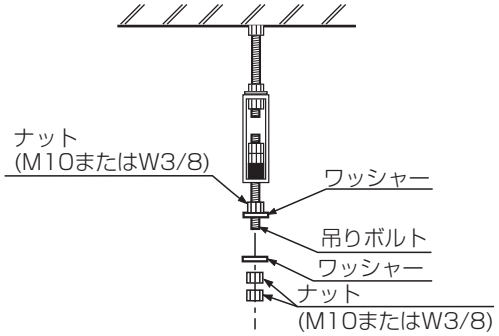
●吊りボルトはまっすぐに取り付けてください。
また、吊りボルトを途中で曲げないようにしてください。
※付属品の防振金具を左図の位置に取り付けてください。
※左図の寸法は目安です。
ただし、＊4寸法が110よりも大きくなると機器の設置ができなくなりますのでご注意ください。

(吊りボルト、スプリングワッシャー、ワッシャー、ナットは現地調達部品)
※本図はホールインアンカーでの施工を示していますが、梁を用いた施工の場合も同様です。

吊り枠の吊り込み

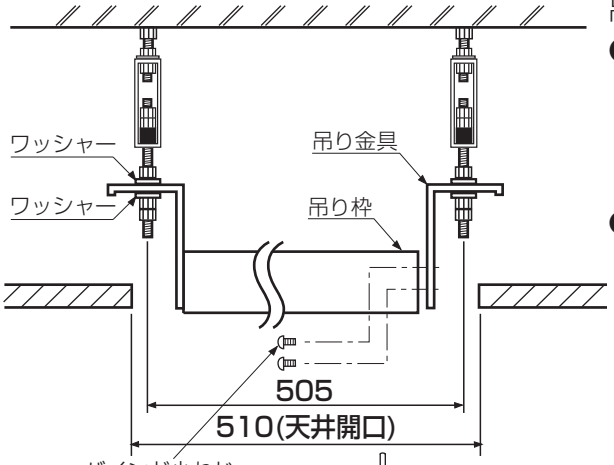


●吊り枠に吊り金具 (2個) を付属のバインド小ねじ (M4×6) 4本で取り付けます。
※ラベル（点検口側）の貼り付け位置に注意して、左図の位置に吊り金具を取り付けてください。



●吊りボルト（4本）にナット、ワッシャーを取り付け、さらに下側からワッシャー、ナットの順番に仮止めします。
※下側のナットはダブルナット固定を推奨します。

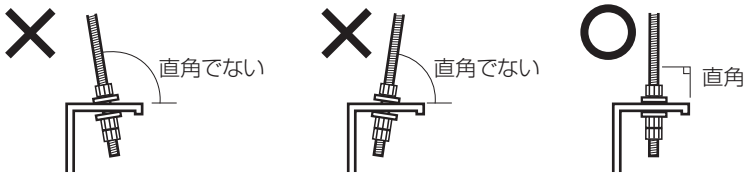
(吊りボルト、ワッシャー、ナットは現地調達部品)



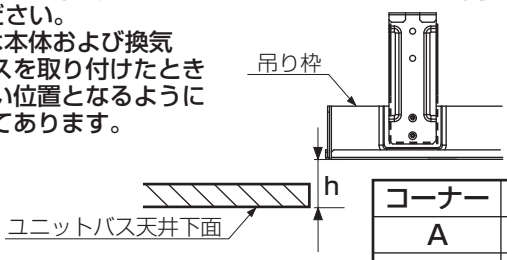
吊り枠を天井に取り付けます。

●あらかじめ吊り枠に取り付けた吊り金具をワッシャーと、ワッシャーの間に挟み、ナットで仮止めし、吊り枠を天井開口から天井裏へ持ち上げます。
※このとき吊り枠に表示してある「点検口側」が必ず点検口側になるように設置してください。

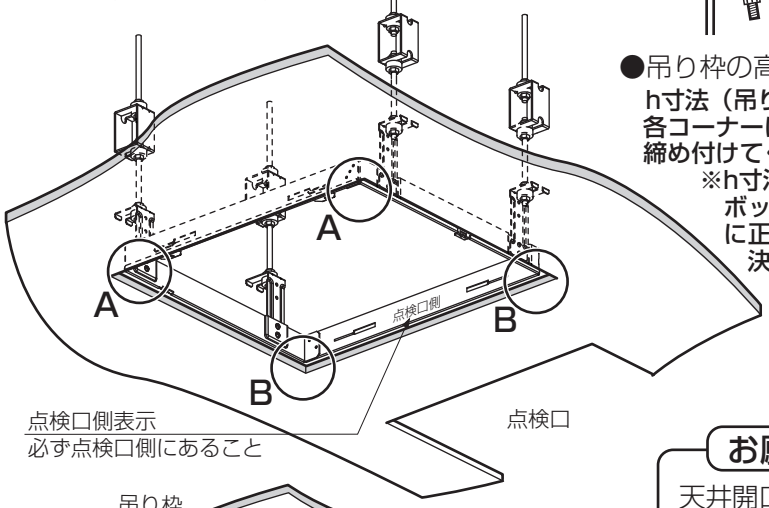
●吊り枠を持ち上げたまま反対側の吊り金具（2個）を付属のバインド小ねじ（M4×6）4本で吊り枠に取り付け、同じようにワッシャーとワッシャーの間に挟み、ナットで仮止めします。
※このとき吊りボルトと吊り金具が直角になるように設置してください。



●吊り枠の高さの位置決めをします。
h寸法（吊り枠下面からユニットバス天井下面までの寸法）が各コーナーにおいて下表のとおりになるように、ナットを調整して締め付けてください。
※h寸法は本体および換気ボックスを取り付けたときに正しい位置となるように決めてあります。

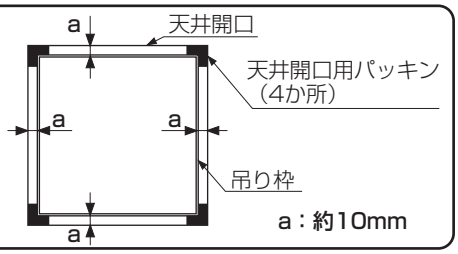


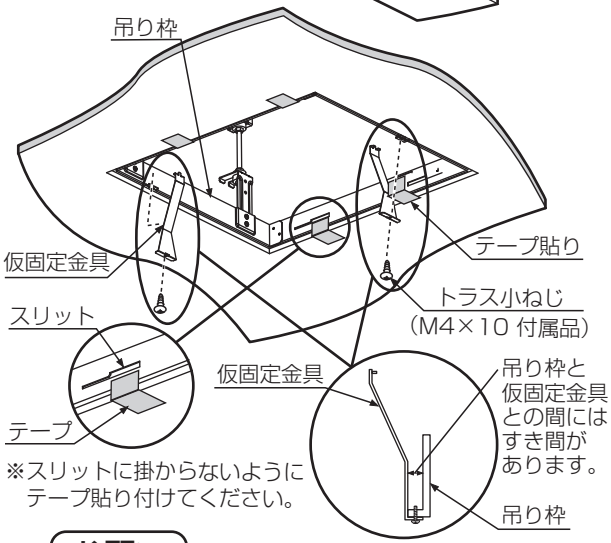
コーナー	h
A	7mm
B	10mm



お願い

天井開口用パッキンを目安にして、**吊り枠が天井開口に対してセンターになるように調整してください。**





●仮固定金具（2個）を、付属のトラス小ねじ（M4×10）2本で取り付けます。
※仮固定金具を変形させないでください。
本体を吊り枠に挿入したときに仮固定ができなくなります。

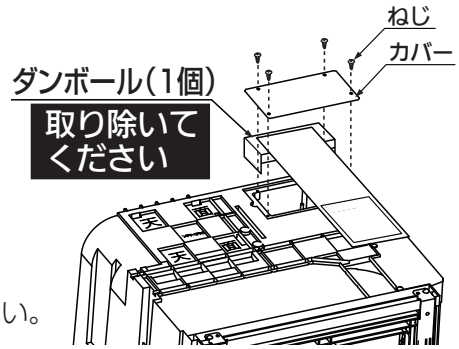
●左図のように、吊り枠のスリット付近（4か所）にテープ（現地調達部品）を貼り付けてください。
※本体を吊り枠に挿入して固定するときに吊り枠が上に押されて逃げるのを防止するためです。**本体の仮固定後、テープをはずします。**（☞14ページ）

お願い

本体の施工前に、ダンボール（1個）を必ず取り除く

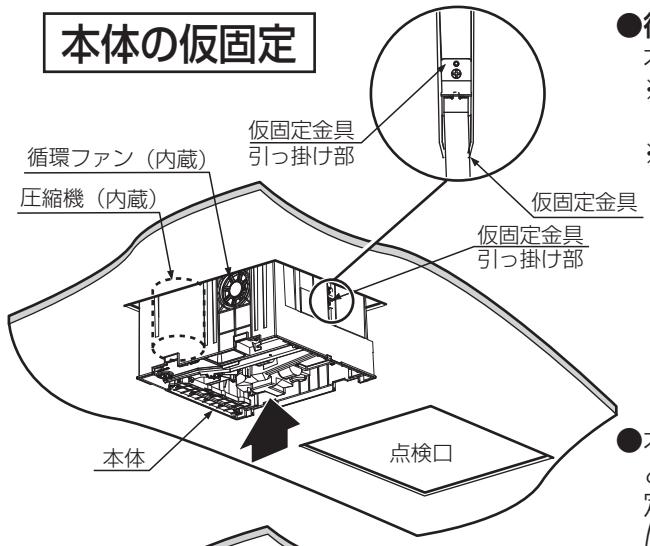
（振動や異常音の原因 ☞ 8ページ）

<手順>
①カバーのねじ（4本）を取りはずしてください。
②カバーを取りはずしてください。
③ダンボール（1個）を取り除いてください。
④カバーとねじを①、②と逆の手順で取り付けて元の状態に戻してください。



ユニットバスへの設置(続き)

本体の仮固定

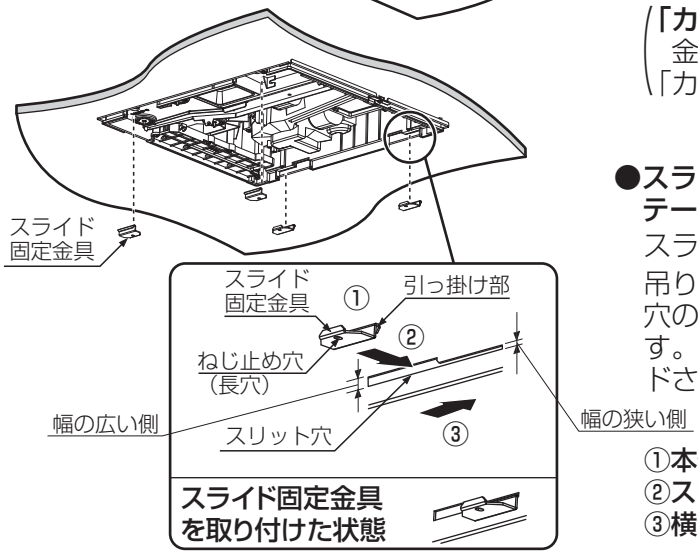


●**循環ファン（内蔵）が点検口と反対側になるように**して、本体を吊り枠の中へまっすぐ押し上げる。
※本体は圧縮機が内蔵されている側が重くなっています。ご注意ください。
※本体側面のコード類を束ねて固定しているテープははずさないでください。

お願い

本体を逆さまにしたり、横置きにしない
本製品は圧縮機を搭載していますので、逆さまにしたり横置きにすると、故障の原因となります。
（ ☞8ページ ）

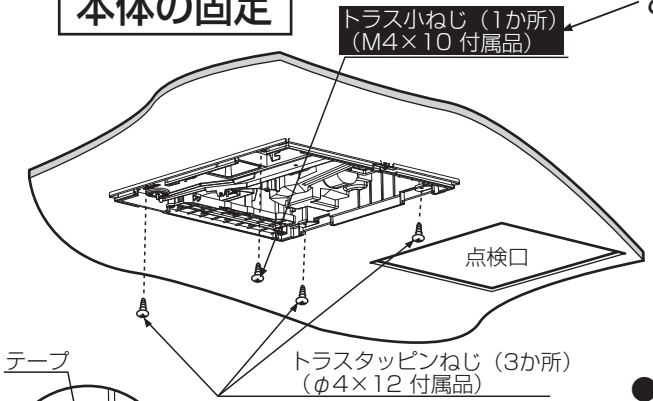
●本体の下面が吊り枠の下面と一致する高さまで持ち上げると、吊り枠に取り付けられている仮固定金具が本体の仮固定金具引っ掛け部に挿入され、本体が保持されます。
（**「カチッ」と音がすることを確認してください。**仮固定金具は本体の両側（2か所）にあります。必ず両側から「カチッ」と音がすることを確認してください。）



●**スライド固定金具を引っ掛ける前に、吊り枠に貼り付けたテープをはずしてください。**（☞13ページ）
スライド固定金具で本体を吊り枠に固定します（4か所）
吊り枠のスリット穴が見えるまで本体を持ち上げ、スリット穴の幅が広い側にスライド固定金具の引っ掛け部を挿入します。そのまま幅の狭い側までスライド固定金具を横にスライドさせます。

①本体を持ち上げながらスリット穴を確認する
②スリット穴にスライド固定金具を挿入
③横にスライド

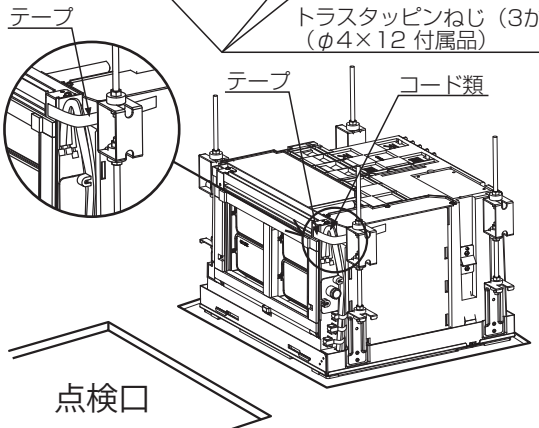
本体の固定



スライド固定金具をねじ止め固定します。
左図のとおり、本体のねじ止め穴が樹脂のところは付属のトラスタッピンねじ（φ4×12 3か所）で、金属のところは付属のトラス小ねじ（M4×10 1か所）で固定します。
※ねじの種類を間違えると、ねじ山がつぶれねじが使えなくなる場合があります。ご注意ください。

お願い

製品本体が天井等に接触していないことを確認してください



●点検口から、本体の側面にコード類を束ねて固定しているテープをはずしてください。コード類を点検口側に引きのばしておきます。

⚠注意

禁止

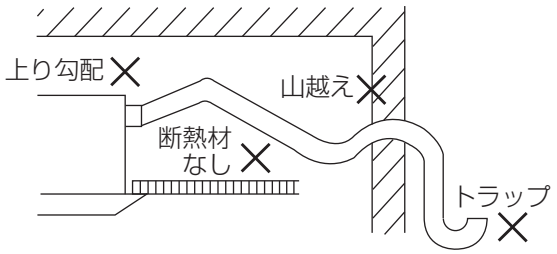
●**テープをはずすときにカッターなどの刃物を使用しない**
（コード類を傷つけると、漏電・感電の原因）

ドレン配管の工事

本製品は、ドレン配管工事が必要です。ドレン水量は最大約0.4ℓ/minになります。
ドレン配管内部を流れるドレン水温度は約5～15℃になります。

お願い

・配管接続に関しては、バスルームの施工説明書も併せて確認してください。
・ユニットバスメーカー先行工事の場合は、ユニットバスメーカーと配管の引き廻しについてよく打ち合わせをしてください。
・先行工事でドレン配管と接続する場合は工事業者とよく打ち合わせをしてください。
・ドレン配管は必ず市販の断熱材（発泡ポリエチレン10mm以上）を巻いて断熱してください。
（結露・凍結予防のため）
また、屋外排水の場合、凍結予防のため屋外のドレン配管も断熱してください。
（経年劣化を考慮した部材を使用してください）
・ドレン配管は、常に下り勾配（1/50～1/100)とし、途中山越えやトラップを作らないように固定金具を用いて固定してください。また、ドレン配管にたるみが生じないようにしてください。
横引きが2m以上になる場合は、つまりを防止するため、配管径がＶＰ25以上の太いものを使用されることをおすすめします。
・必要に応じてユニットバス天井・壁に配管を固定できるよう事前にユニットバスメーカーと打ち合わせをしてください。
・本体のドレン接続口からの横引きや本体外でのドレンアップは絶対にしないでください。
ドレン排水不良（排水異常表示：F55 ）や異常音、ドレンポンプの故障の原因となります。
・エアー抜き管は絶対につけないでください。（ドレンが吹き出る場合があります）
・ドレン配管は、他のエアコンのドレン配管と合流させないでください。
・ドレン配管をアンモニアガス・イオウ系ガスの発生する下水道や浄化槽などに直接入れないでください。
・電源接続後、フロントパネルの取り付け前に排水チェックを必ずおこなってください。



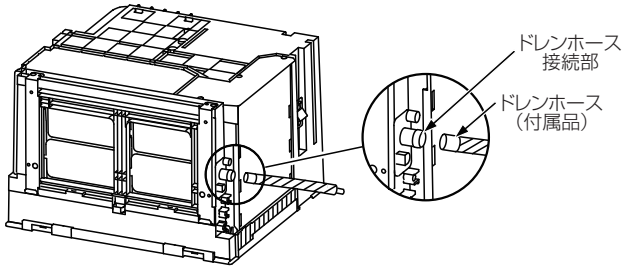
●ドレン配管推奨部材（例）

	現地での調達の場合	別売部材を使用の場合	
ユニットバスのエプロン内に排水する場合	・硬質塩化ビニル管（VP20） ・エルボ（呼び径20） ・バルブソケット（メタル入）（呼び径20） ・めすおすエルボ（メタル入）（呼び径20×3/4） ・タンク取付金具（三栄水栓H350-20） ・保温チューブ（VP20用）	壁厚：0～12mmの場合	**AD-FYDS-E11**
		壁厚：12～25mmの場合	**AD-FYDS-E1A**
		※いずれも別途、硬質塩化ビニル管（VP20）、保温チューブ（VP20用）が必要です。	
ユニットバスの洗い場に排水する場合	―――	壁厚：0～12mmの場合	**AD-FYDS-E21**
		壁厚：12～25mmの場合	**AD-FYDS-E2A**
		※いずれも別途、硬質塩化ビニル管（VP20）、保温チューブ（VP20用）が必要です。	
屋外に排水する場合	・硬質塩化ビニル管（VP20） ・エルボ（呼び径20） ・保温チューブ（VP20用）	―――	

AD品番はパナソニックホームエンジニアリング（株）システム部材開発センター取り扱い品です。

●ドレンホース（付属品）の取り付け位置

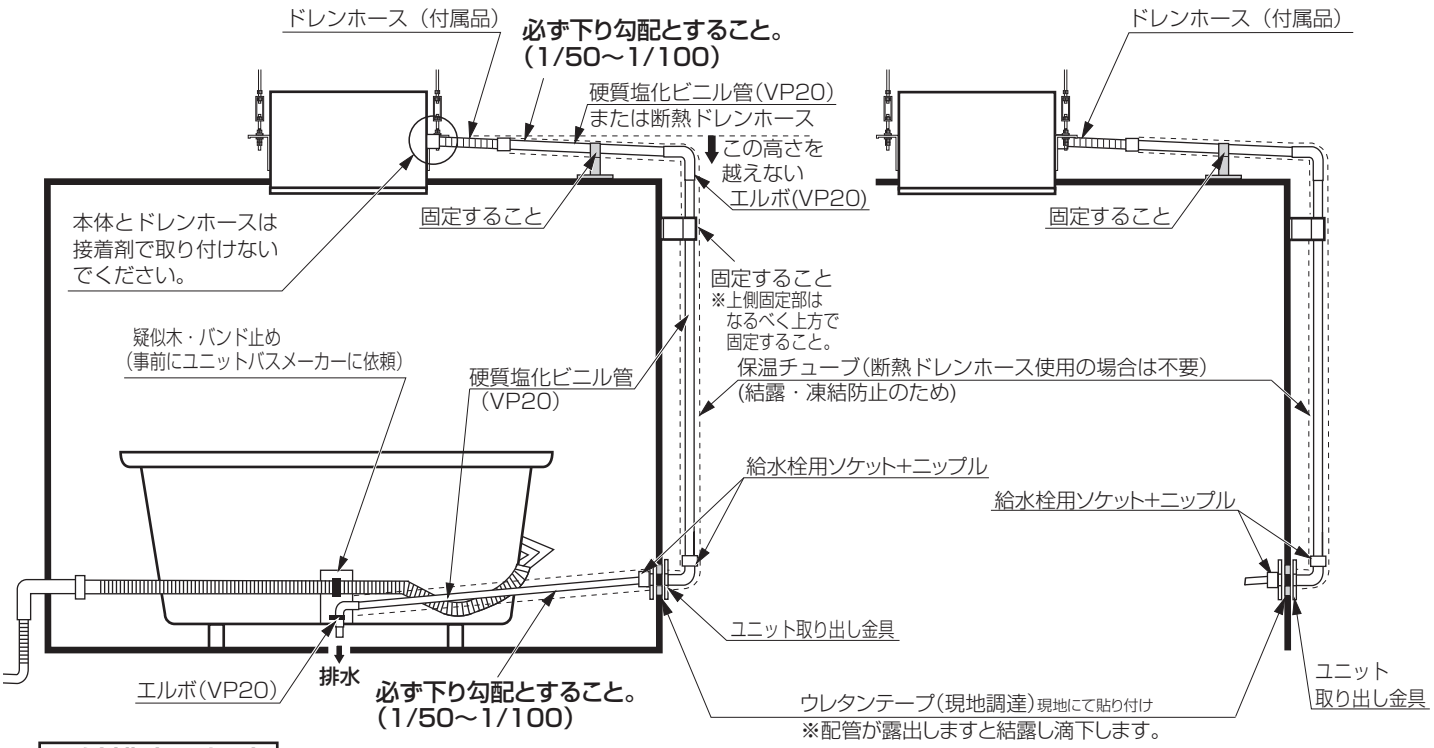
・ドレンホース（付属品）は、本体側面のドレンホース接続部にしっかりと奥まで挿入して取り付けてください。
・**本体とドレンホースは接着剤で取り付けないでください。**本体をおろす場合にドレンホースが取りはずせなくなります。



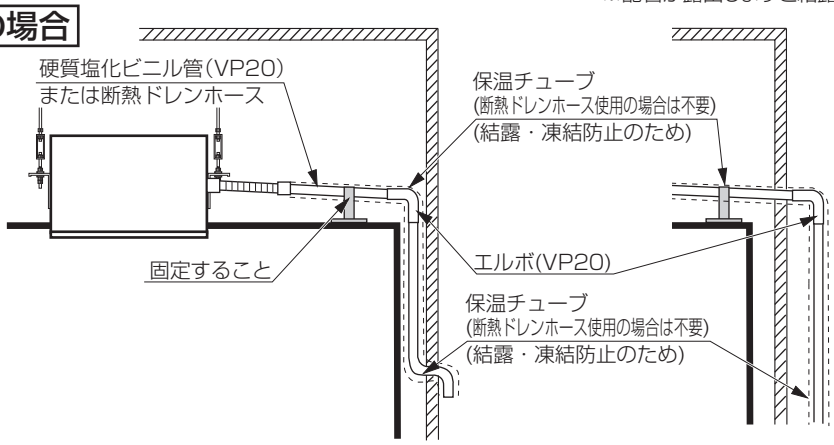
ドレン配管の工事(続き)

●ドレン工事の参考例

ユニットバスのエプロン内に排水する場合



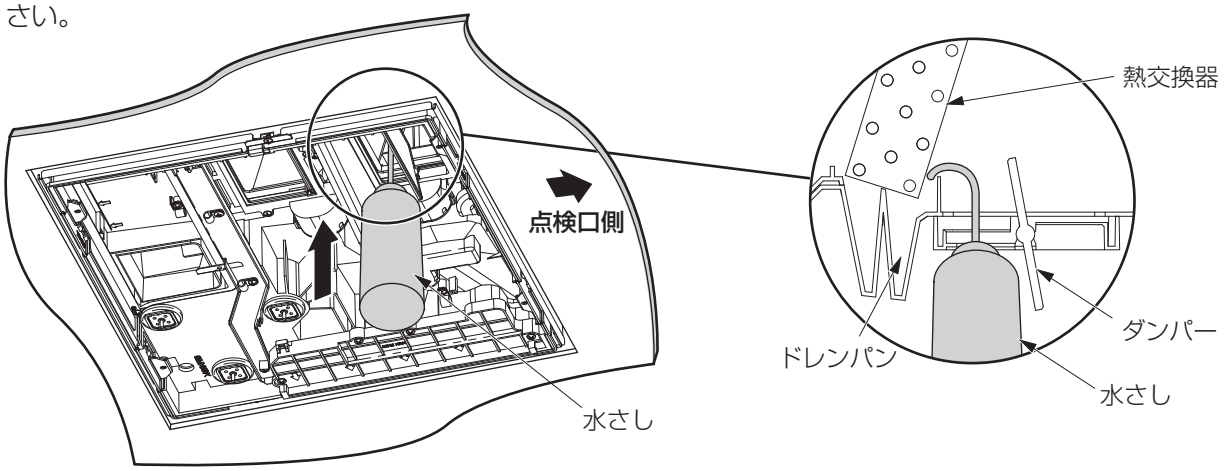
屋外排水の場合



ドレン排水の確認（フロントパネルの取り付けの前におこなってください）

本体下面にある点検口側のダンパーを垂直になるまで手でゆっくり開き、水さしでドレンパンへ約200～300cc水を注入し、コントローラーで除湿乾燥運転をおこなってください。(約10分)

ドレン配管の出口から排水されることを確認するとともに、本体とドレン配管との接続部から水漏れしていないか確認してください。



(浴室内から見上げた図(フロントパネルの取り付け前))

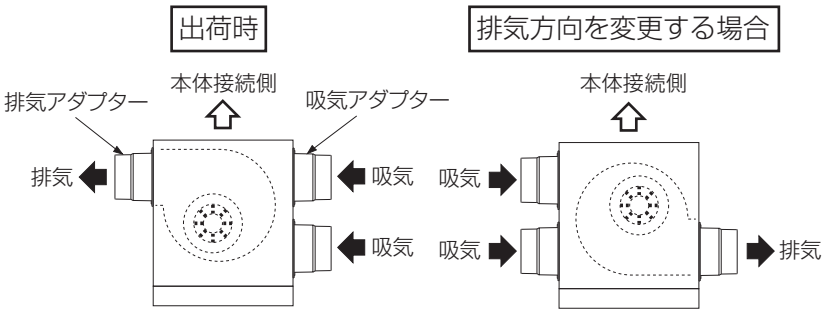
換気ボックスの取り付け

換気ボックスの準備

ダクト設計に応じて排気方向を変更することができます。

お願い

・排気アダプター・吸気アダプターは、はずさないでください。風漏れの原因になる場合があります。



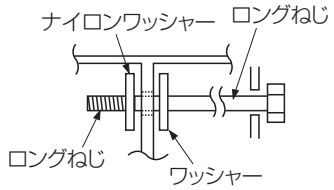
(換気ボックスを上から見た図)

お願い

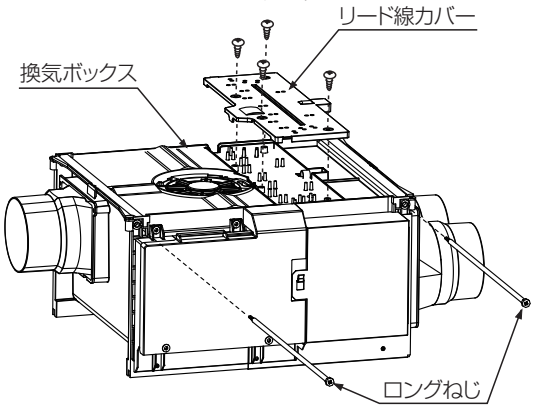
排気方向を変更した場合は必ずコントローラーで設定変更してください。
設定変更をしないと予備暖房運転時に浴室があたたまりにくくなります。
（☞ 26ページ 50の項目）

排気方向を変更する場合

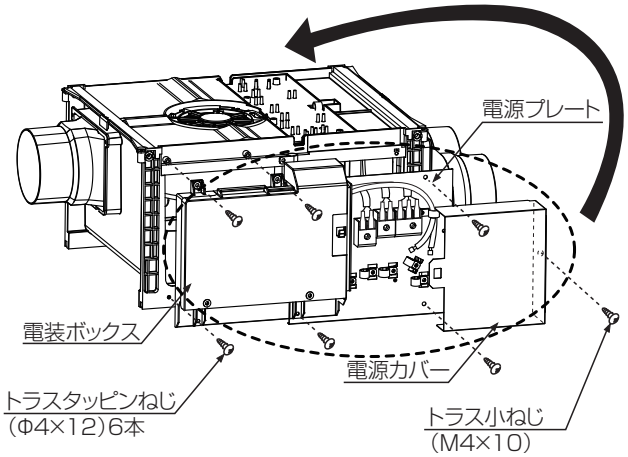
※出荷時の方向で取り付け可能な場合は、**換気ボックスの取り付け（☞18ページ）**から作業をおこなってください。



①換気ボックスからロングねじ（2本）をはずします。
（このとき、ロングねじについているナイロンワッシャー（各1個）とワッシャー（各1個）をなくさないよう注意してください）



②リード線カバーを固定しているねじ（4本）をはずし、リード線カバーを換気ボックスからはずします。



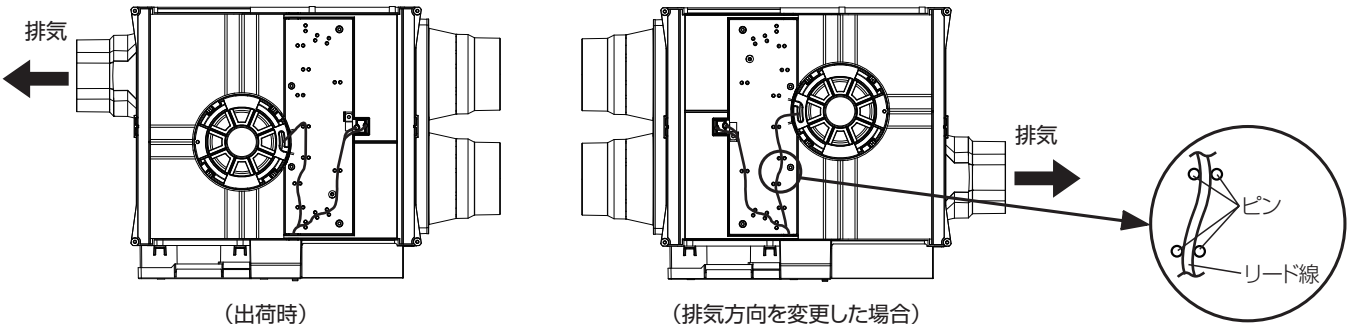
③電源カバー（固定しているねじ1本）を取りはずします。
※ねじはトラス小ねじ（M4×10）

④電装ボックス（固定しているねじ4本）と電源プレート（固定しているねじ2本）を取りはずします。
※ねじはいずれもトラスタッピンねじ(Φ4×12)合計6本

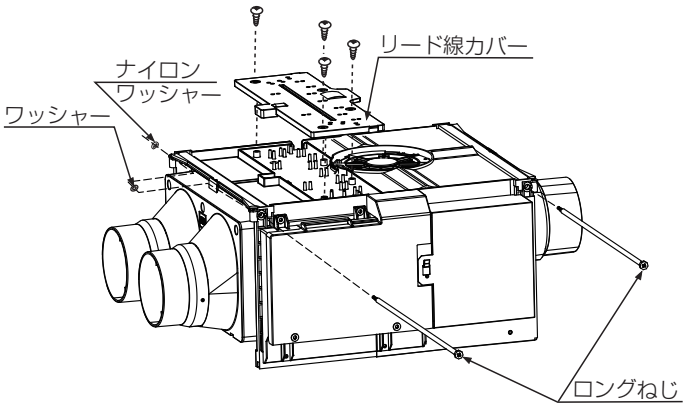
⑤電源プレート、電装ボックス、電源カバーを換気ボックスの反対側の面に取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

換気ボックスの取り付け（続き）

⑥換気ボックス上面のリード線（3本）を図のとおりピンに沿って引き廻します。



（出荷時）　（排気方向を変更した場合）



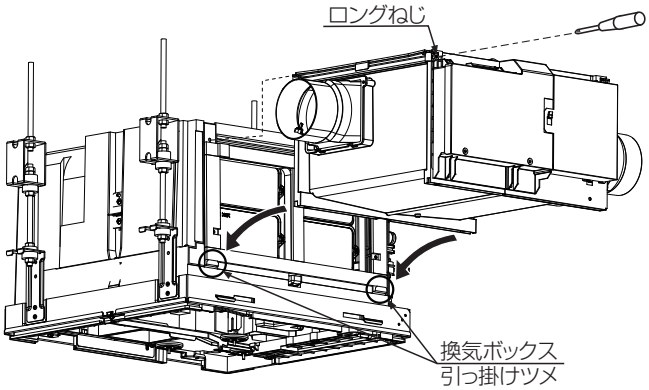
⑦リード線カバーをねじ（4本）で取り付けます。

※リード線カバーに開いている穴を見て、リード線がピンにかみ込んでいないことを確認してください。

⑧ロングねじ（2本）を取り付けます。

※ロングねじにはワッシャー、ナイロンワッシャーを取り付けてください。
（☞ 17ページ）

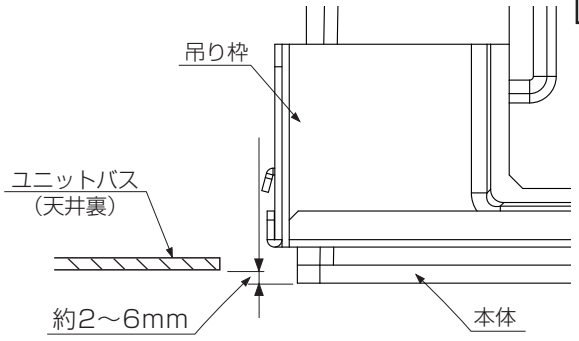
換気ボックスの取り付け



①点検口から換気ボックスを天井裏に上げてください。

②点検口から見て本体手前側に設けた換気ボックス引っ掛けツメに換気ボックス下端を引っ掛け、換気ボックスを本体に押し付けながら、ロングねじ（2本）をねじ込み固定してください。
※ロングねじのねじ込みは、電動工具を用いず、必ず手締めしてください。

お願い



必ず確認してください

・換気ボックスを本体に取り付けた状態で本体が水平に設置されているか確認してください。
（水準器にて確認してください。傾きは0.5°以内にしてください）
（本体の下面がユニットバス天井下面から下方へ約2～6mmの位置にあることを確認してください）
・**吊り枠および本体が天井開口に接触していないか確認してください。接触していると、振動や異常音の原因になります。**
・換気ボックスが天井裏のリブなどに接触していないか確認してください。接触していると、異常音の原因になります。

ダクトの接続、副吸込グリルの取り付け

排気ダクト・吸気ダクトの接続

① 排気ダクト、吸気ダクトは点検口の開口部を避けて配管してください。点検口と換気ボックスの間も避けてください。(メンテナンス作業ができません)

お願い

- **排気ダクトは必ず断熱チューブまたは断熱処理を施したダクトを使用してください。**
- **排気ダクトを曲げる場合は、排気アダプターから1m程度の直管部を設けたあとに曲げてください。**

② 吸気ダクトと換気ボックスとの接続部は必要に応じてフレキ管を使用してください。

③ 排気ダクトは雨水や結露水が本体内に逆流しないよう傾斜角度Qを設けてください。(Q= 1/50)

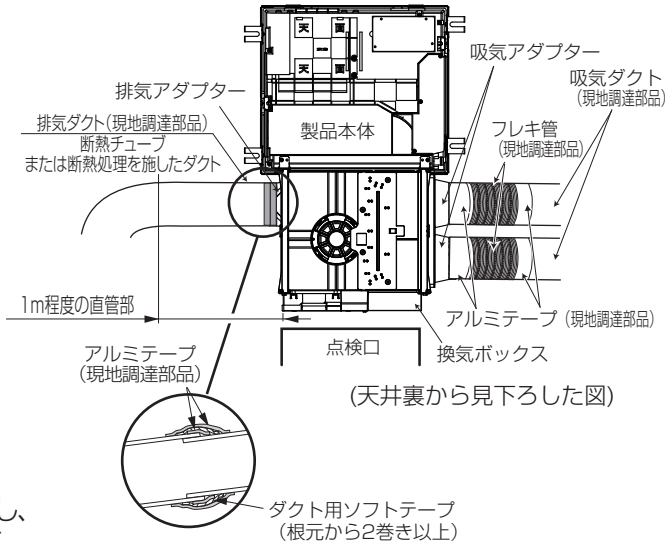
④ 吸気ダクトは結露水が逆流しないように副吸込グリル側に対し、換気ボックス側の方が低くなるように傾斜角度Q'を設けてください。(Q' = 1/50)

⑤ 接続部分のフレキ管は急激に曲げないでください。換気ボックスの排気アダプターに付いているシャッターが排気ダクトに引っ掛からないことを確認してください。

⑥ ダクトと換気ボックスとの接続はアルミテープを全周に巻き、漏れのないように固定してください。

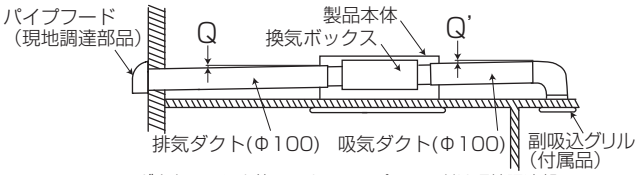
⑦吸気ダクトは消音ダクトの使用を推奨します。

⑧屋外の換気口は、パイプフードをお使いください。
FY-MFA043(パナソニック エコシステムズ(株)製)
風圧式シャッター付の深形パイプフードを選定される場合は
FY-MSX043(パナソニック エコシステムズ(株)製)を
お使いください。
排気ダクトとフードの接続個所も断熱してください。



(天井裏から見下ろした図)

※アルミテープ、ソフトテープ、
アルミテープの順に巻いて固定してください。



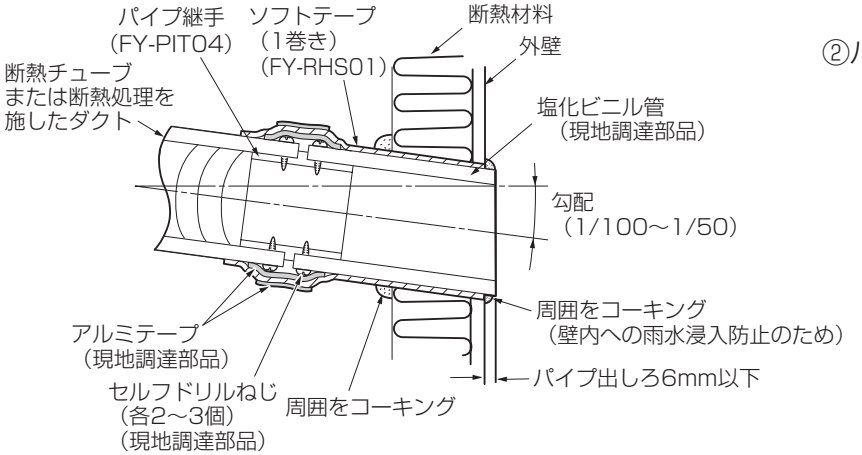
※ダクト・フレキ管・アルミテープ・フードは現地調達部品

お願い

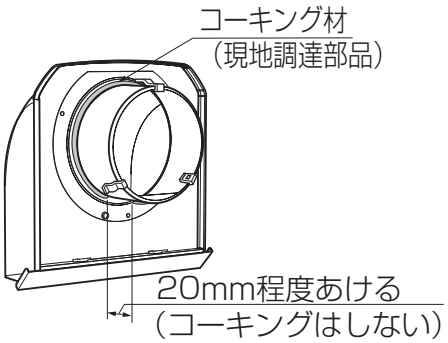
- **本製品は3室換気専用です。必ずトイレや洗面所または居室(リビングなど)の2か所に副吸込グリル(付属品)を設置し、吸気ダクトと接続してください。**
- **吸気アダプター、排気アダプターともに絶対にテープなどでふさがないでください。**
- **吸気をおこなわないと暖房ができません。**

パイプフードの取り付け

①外壁面とチューブを接続する。



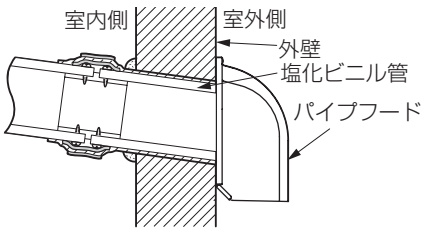
②パイプフードにコーキングを施す。



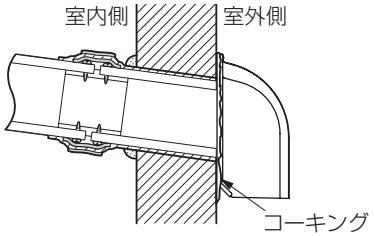
お願い

- **ソフトテープは断熱チューブまたは断熱処理を施したダクトと塩化ビニル管の接合部から塩化ビニル管の壁面側まですき間なく1巻き以上必ず巻いてください。**

③パイプフードを壁面の塩化ビニル管に差し込む。



④パイプフードと壁面のすき間および、全周に雨水浸入防止用のコーキングを施す。

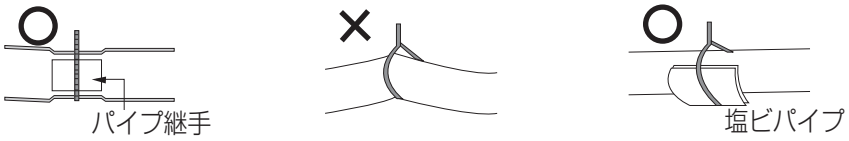


ダクトの接続、副吸込グリルの取り付け(続き)

お願い

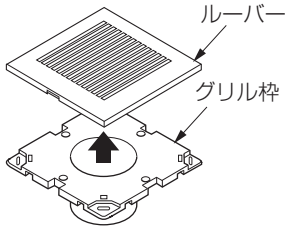
・排気ダクト、吸気ダクトと製品本体との接続はねじ、リベットおよび接着剤を使用しないでください。
アダプター内のシャッターが引っ掛かったり、製品のメンテナンスができなくなる可能性があります。
・排気ダクト、吸気ダクトは柱や梁に直接固定しないでください。振動の原因になる場合があります。
・排気アダプターや吸気アダプターに塩化ビニル管、鉄管などのかたいダクトを直接つながないでください。
換気ボックスがはずれなくなります。
・排気アダプター、吸気アダプターは、はずさないでください。風漏れの原因になる場合があります。
・トイレ・洗面所の吸込グリルは、天井の中央部に取り付けてください。
・他の機器と排気ダクトを共有できません。排気ダクトへの接続は単独としてください。

天井内でダクトを吊るとき、吊り下げ位置でのダクトの曲がり・つぶれを防止するため、吊り位置をダクト接続部（パイプ継手部）にするようにしてください。パイプ継手部以外で吊る場合には下図のように塩ビ管を二分割したものなどで受けて吊るようにしてください。

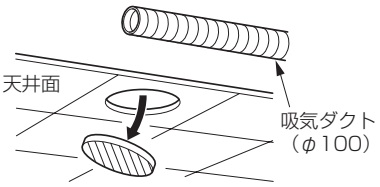


副吸込グリルの取り付け

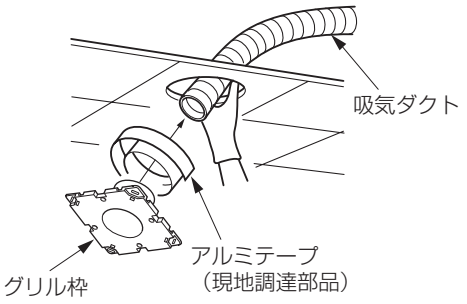
①副吸込グリルのルーバーをグリル枠から取りはずす。



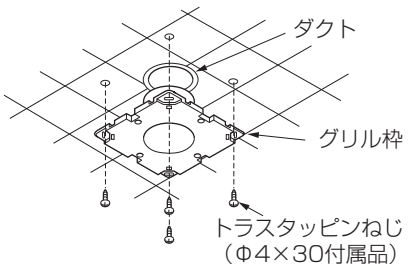
②副吸込グリルを取り付ける天井面にダクトを通す穴を(φ110~φ120)開ける。



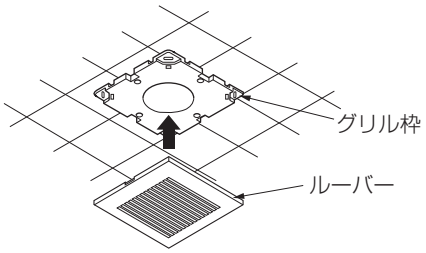
③ ②で開けた穴から吸気ダクト(φ100)を引き出し、副吸込グリルのグリル枠に吸気ダクトを差し込んで接続し、アルミテープ(現地調達品)で固定する。



④副吸込グリルのグリル枠を天井面の穴に挿入し、付属のトラスタッピンねじ(φ4×30)4本で取り付ける。

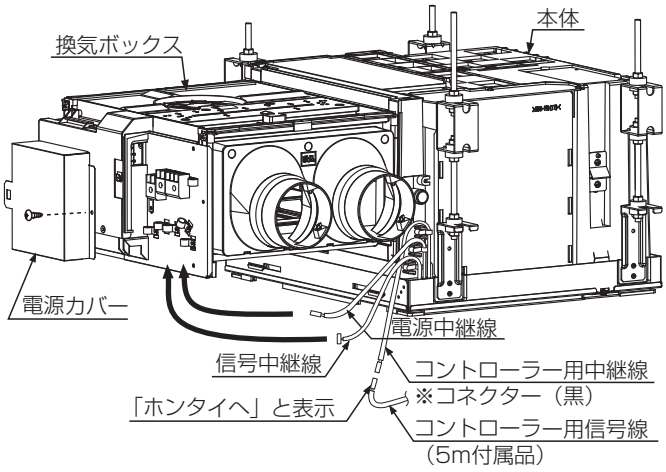


⑤グリル枠にルーバーを取り付ける。



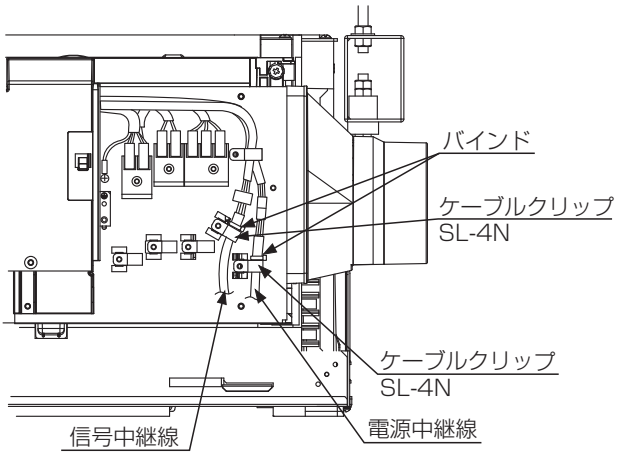
電気工事と結線

コントローラー用信号線の接続



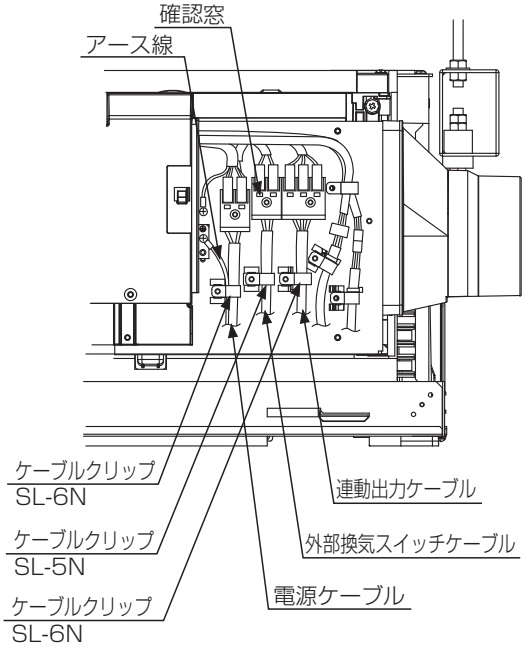
●本体から出ているコントローラー中継線と付属のコントローラー用信号線を接続します。
※コントローラー用信号線の「ホンタイへ」と表示されている側を接続してください。

電源中継線と信号中継線の接続



①換気ボックス側面のねじ（1本）をはずして、電源カバーを取りはずす。
②本体から出ている電源中継線と信号中継線を、換気ボックス側面の電源線と信号線に接続します。
③各ケーブルは接続後、接続部に無理な力が掛からないように、ケーブルクリップで固定します。
※電源中継線および信号中継線は、バインドの位置に注意してケーブルクリップで固定してください。

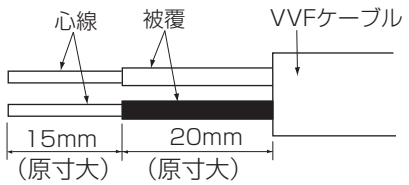
電源ケーブル、外部換気スイッチケーブル、連動出力ケーブル、アース線の接続



⚠警告

- **配線工事、電源接続工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「電気工事士」が確実におこなう**
（感電や火災の原因）
- **アース工事は電気設備技術基準に関連する法令・規程などに従って必ず「電気工事士」によるD種（第三種）接地工事をおこない、専用の漏電ブレーカーを設置する**
（故障や漏電のときに、感電のおそれがあります）
- **電源ケーブルは確実に接続する**
（火災の原因）
- **必ず交流100ボルトで使用する**
（感電や火災の原因）

①ケーブルは接続の前に、ＶＶＦケーブルの先端15mmの被覆をむきます。



・電源ケーブル　　：VVF φ1.6またはφ2.0　2心
・外部換気スイッチケーブル：VVF φ1.6またはφ2.0　2心
（トイレや洗面所に外部換気スイッチを設置する場合）
・連動出力ケーブル：VVFφ1.6またはφ2.0　2心または3心
（電動気密シャッター、中間ダクトファンを設置する場合）
・アース線：銅線直径φ1.6以上または断面積が2.0mm²以上

電気工事と結線(続き)

②電源ケーブル、外部換気スイッチケーブル、連動出力ケーブルを図のとおり端子台に差し込みます。
※端子台の確認窓からケーブルの心線が見えるまで確実に差し込んでください。
※下記の<施工例>、結線ラベルを確認して結線間違いがないよう注意してください。

③アース線をアース端子に確実に締め付けます。

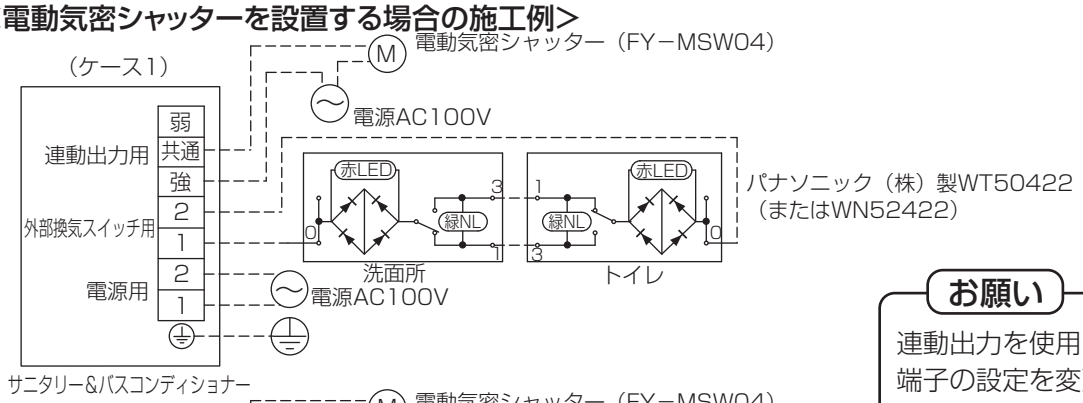
④各ケーブルは接続後、接続部に無理な力が掛からないようにケーブルクリップで固定します。

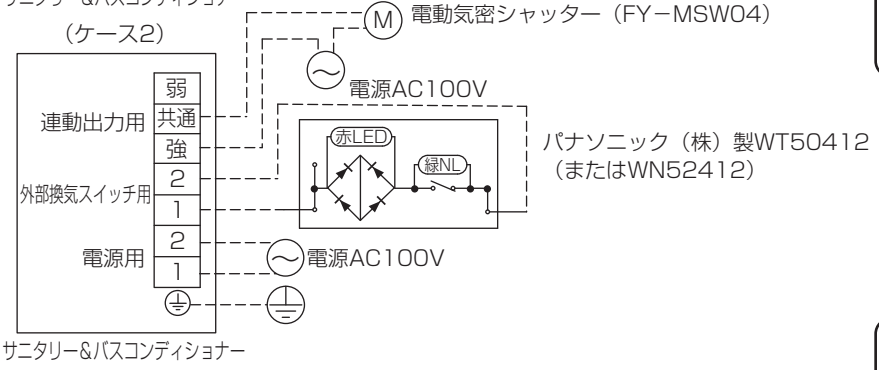
⑤すべての接続が終了したら、必ず結線間違いがないかチェックして、電源カバーを取り付けてください。

お願い

各ケーブルは点検がおこなえるように余裕をもたせて配線してください。

<電動気密シャッターを設置する場合の施工例>

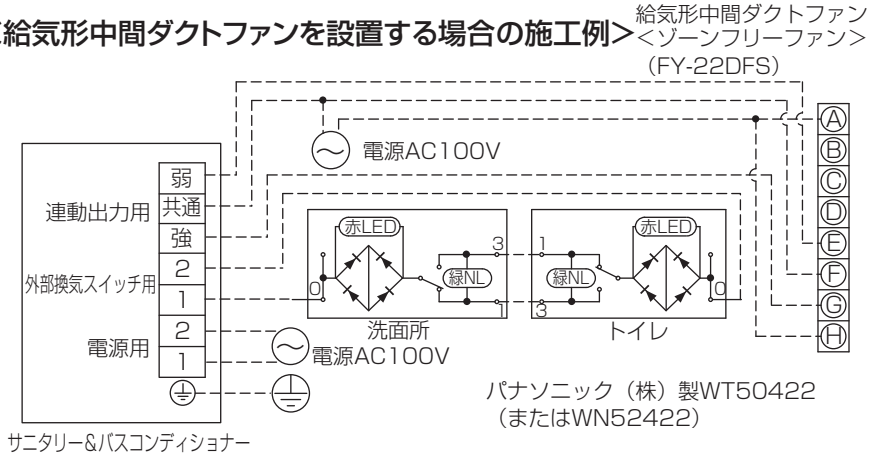




お願い

連動出力を使用するときは連動出力端子の設定を変更する必要があります。
（☞25ページE0:の項目）

<給気形中間ダクトファンを設置する場合の施工例>

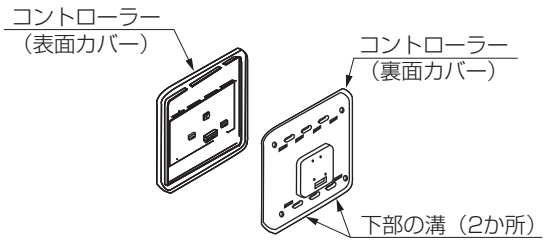


お願い

・外部スイッチの漏れ電流は1.4mA以下のものを使用してください。
また、外部スイッチ接続線には21mAが流れますので、これに適合するスイッチを選定してください。
適合しないスイッチを接続すると正常に作動しません。
（遅れ停止スイッチ〔電子〕パナソニック（株）製WTC5383Wは使用できません）
・連動出力端子は1A以下で使用してください。
（FY-22DFSの特強モードは1Aを越えるため使用しないでください）

コントローラーの取り付け

●コントローラーに傷が付かないように、マイナスドライバーなどを裏面カバー下部の溝に差し込み、裏面カバーをはずしてください。



お願い

コントローラー裏面カバーの固定時には、電動ドライバーを使わずに、裏面カバーが動かない程度にねじを締め込んでください。（目安20N·cm（2kgf·cm）以下）
締め過ぎると裏面カバーが変形したり、割れたり、表面カバーが取り付かないおそれがあります。

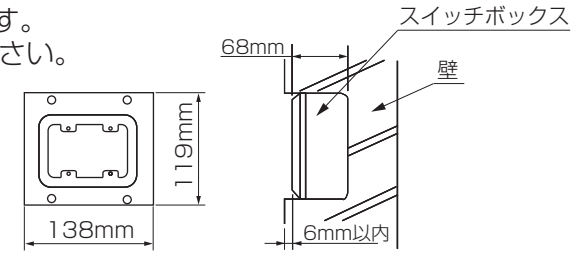
●浴室の外（洗面所など）の壁に、コントローラー裏面カバーを取り付けます。

スイッチボックスを使って取り付ける場合

スイッチボックス（JIS C8340）を使用して取り付けます。
スイッチボックスの埋め込みは、あらかじめ指示してください。

取付可能なスイッチボックス	壁穴開口サイズ
2個用カバー付き	100×100 mm
2個用カバーなし	100×100 mm
1個用	100×55 mm

※スイッチボックスは現地調達部品です。

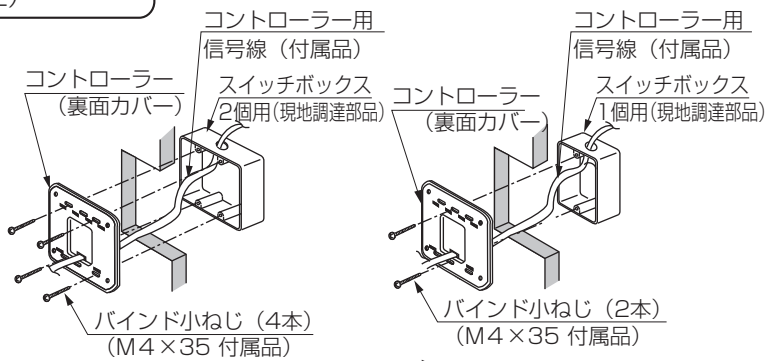


（2個用スイッチボックスカバー付きの場合）

お願い

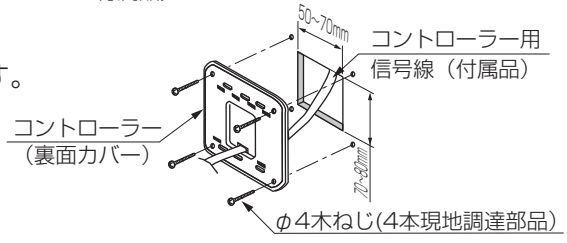
電線管は、内径がφ20mm以上のものを使用してください。
（JIS C8305:G22・C25・E25以上の呼び径）

コントローラー用信号線をスイッチボックス内に納め、コントローラー裏面カバーの角穴に通したあと、裏面カバ ーを付属のバインド小ねじ(M4×35)で固定します。



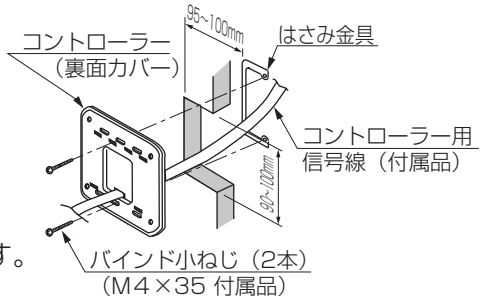
直接壁に取り付ける場合

図のサイズの開口を開けてください。
壁開口は幅 50～70(mm)、高さ 70～80(mm)必要です。
コントローラー用信号線をコントローラー裏面の角穴に通したあと、裏面カバ ーをφ4木ねじ（現地調達部品）4本で固定します。



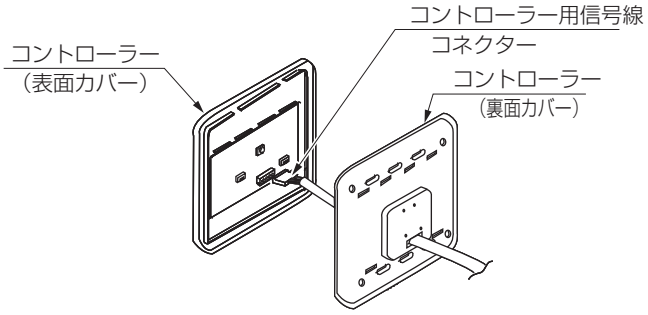
はさみ金具を使って取り付ける場合

図のサイズの開口を開けてください。
壁開口は幅 95～100(mm)、高さ 90～100(mm)必要です。
※はさみ金具はパナソニック（株）製 WN3992K020 をご使用ください。
コントローラー用信号線をコントローラー裏面カバーの角穴に通したあと裏面カバーを付属のバインド小ねじ（M4×35）2本で固定します。

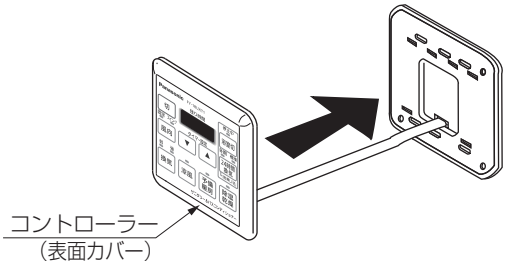


コントローラーの取り付け（続き）

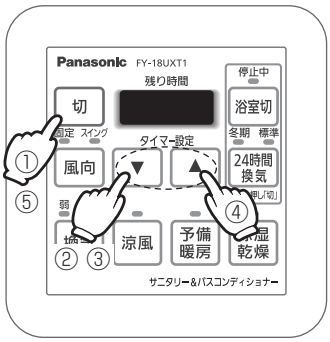
● 図のようにコントローラー用信号線のコネクターをコントローラー表面カバーの基板上コネクターに差し込みます。



● コントローラー（表面カバー）を取り付けてください。



各種設定



コントローラーの操作により、各種設定ができます。
注）この操作はコントローラー設置後、本体の電源を入れてからおこなってください。

① 機器が停止していることを確認します。
運転しているときは［切］ボタンを押して運転を停止させてください。
24時間換気が運転しているときは、［24時間換気］ボタンを3秒以上押して運転を停止させてください。

② 機器が停止していることを確認したあと、［▼］ボタンを**4秒以上押す。**
残り時間表示部に A○○ が表示されます。

③ ［▼］ボタンを押して設定項目を変更します。
［▼］ボタンを押すたびに A○○ → b○○ →…→ AF○ と残り時間表示部の表示が変わりますので、設定したい項目が表示されるまで押してください。
（行きすぎたときも［▼］ボタンを押して設定したい項目を表示させてください。
逆のボタン［▲］を押しても設定項目を戻れません。④に進み、設定内容が変更されます。）

④ ［▲］ボタンを押して設定内容を変更します。
［▲］ボタンを押すたびに設定内容が変わります。
（残り時間表示部の表示が変わります）
（行きすぎたときも［▲］ボタンを押して設定したい内容を表示させてください。
逆のボタン［▼］を押しても設定項目を戻れません。③に戻り、設定項目が変更されます。）

⑤ ［切］ボタンを押して設定モードを終了します。
残り時間表示部は消灯し、変更した内容で設定されます。

●外部換気スイッチによる遅れ停止機能の遅れ時間を変更します。

設定項目（▼で順送り）		設定内容（▲で順送り）		
残り時間表示部	項　　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　　容
A○○	外部換気スイッチの遅れ停止時間変更	A00		遅れ停止時間0分
		A01		遅れ停止時間1分
		A02		遅れ停止時間2分
		A03	○	遅れ停止時間3分
		⋮	⋮	⋮
		A 10		遅れ停止時間10分
		※0～10分まで1分ごとに変更できます。		

●エアーフィルターのお掃除の目安として、コントローラーに「 U04 」が表示されるまでの時間を変更します。
24時間換気でご使用の場合、約720時間=約30日間、約1080時間=約45日間、約1440時間=約60日間経過するとコントローラーに「 U04 」が表示されます。

設定項目（▼で順送り）		設定内容（▲で順送り）		
残り時間表示部	項　　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　　容
b○○	お掃除の目安時期表示設定	b00		「 U04 」の表示なし
		b07		累積運転時間約720時間で「 U04 」が表示
		b10	○	累積運転時間約1080時間で「 U04 」が表示
		b14		累積運転時間約1440時間で「 U04 」が表示

●連動出力設定を変更します。
給気形中間ダクトファン、電動気密シャッターと接続される場合に設定してください。
接続しない場合は設定変更をおこなわないでください。

設定項目（▼で順送り）		設定内容（▲で順送り）		
残り時間表示部	項　　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　　容
E0○	連動出力設定	E00	○	出力しない。
		E01		給気形中間ダクトファン接続時 換気ファンの出力がONのとき連動出力「弱」出力
		E02		給気形中間ダクトファン接続時 換気風量が100m3/h以上180m3/h未満の運転のとき連動出力「弱」出力 換気風量が180m3/h以上の運転のとき連動出力「強」出力
		E03		給気形中間ダクトファン接続時 換気風量が100m3/h以上150m3/h未満の運転のとき連動出力「弱」出力 換気風量が150m3/h以上の運転のとき連動出力「強」出力
		E04		電動気密シャッター接続時

●換気風量を変更します。（換気機能のある全モード）
通常、設定変更はおこなわないでください。

設定項目（▼で順送り）		設定内容（▲で順送り）		
残り時間表示部	項　　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　　容
L0○	換気風量設定	L01		換気風量少なめ
		L02	○	換気風量通常

各種設定(続き)

●換気ボックスの排気方向を設定します。
換気ボックスの排気方向を変更する場合(☞ 17～18ページ)は、必ず設定内容を変更してください。

設定項目(▼で順送り)		設定内容(▲で順送り)		
残り時間表示部	項　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　容
50○	排気方向設定	500	○	点検口から見て排気方向左
		501		点検口から見て排気方向右

●24時間換気運転時の換気風量を変更します。
施工する住宅の延べ床面積に合わせて換気風量を設定してください。

設定項目(▼で順送り)		設定内容(▲で順送り)		
残り時間表示部	項　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　容
J○○	24時間換気風量設定	J06		60m³/h
		J08		80m³/h
		J10	○	100m³/h
		J12		120m³/h
		J15		150m³/h

●予備暖房運転時の換気風量を変更します。
通常、設定変更はおこなわないでください

設定項目(▼で順送り)		設定内容(▲で順送り)		
残り時間表示部	項　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　容
Jd○	予備暖房時換気風量設定	Jd0		換気風量少なめ
		Jd1	○	換気風量通常

●換気「強」および換気「弱」の設定風量を変更します。
通常、設定変更はおこなわないでください。

設定項目(▼で順送り)		設定内容(▲で順送り)		
残り時間表示部	項　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　容
JA○	換気モード設定	JA0		換気「強」150m³/h、換気「弱」80m³/h
		JA1	○	換気「強」180m³/h、換気「弱」80m³/h

●除湿乾燥運転後の自動換気運転時間を変更します。
通常、設定変更はおこなわないでください。

設定項目(▼で順送り)		設定内容(▲で順送り)		
残り時間表示部	項　目	残り時間表示部	出荷時設定	内　容
AF○	除湿乾燥運転後の自動換気設定	AF0		自動換気運転なし
		AF1		自動換気運転約30分
		AF2	○	自動換気運転約1時間
		AF3		自動換気運転約1時間30分
		AF4		自動換気運転約2時間

※各種設定が終わったら、ドレン排水の確認をおこなってください。(☞ 16ページ)

フロントパネルの取り付け

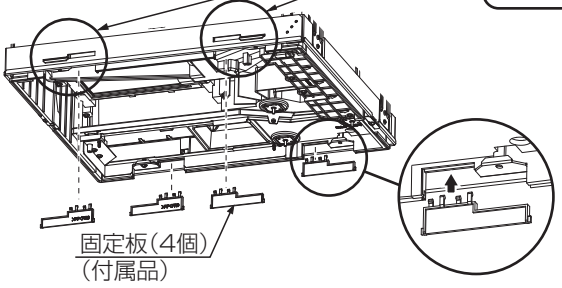
お願い

フロントパネルを取り付ける前にドレン排水の確認をおこなってください。
（☞16ページ）

固定板の取り付け

取り付け位置を確認してください

固定板は黒い樹脂部品に取り付けてください。



●付属の固定板（4個）を、本体のスライド固定金具を取り付けた切欠きにはめ込みます。

お願い

固定板を付けなかった場合、天井裏に湿気が漏れるおそれがありますので、必ず取り付けてください。

フロントパネル取付枠の取り付け

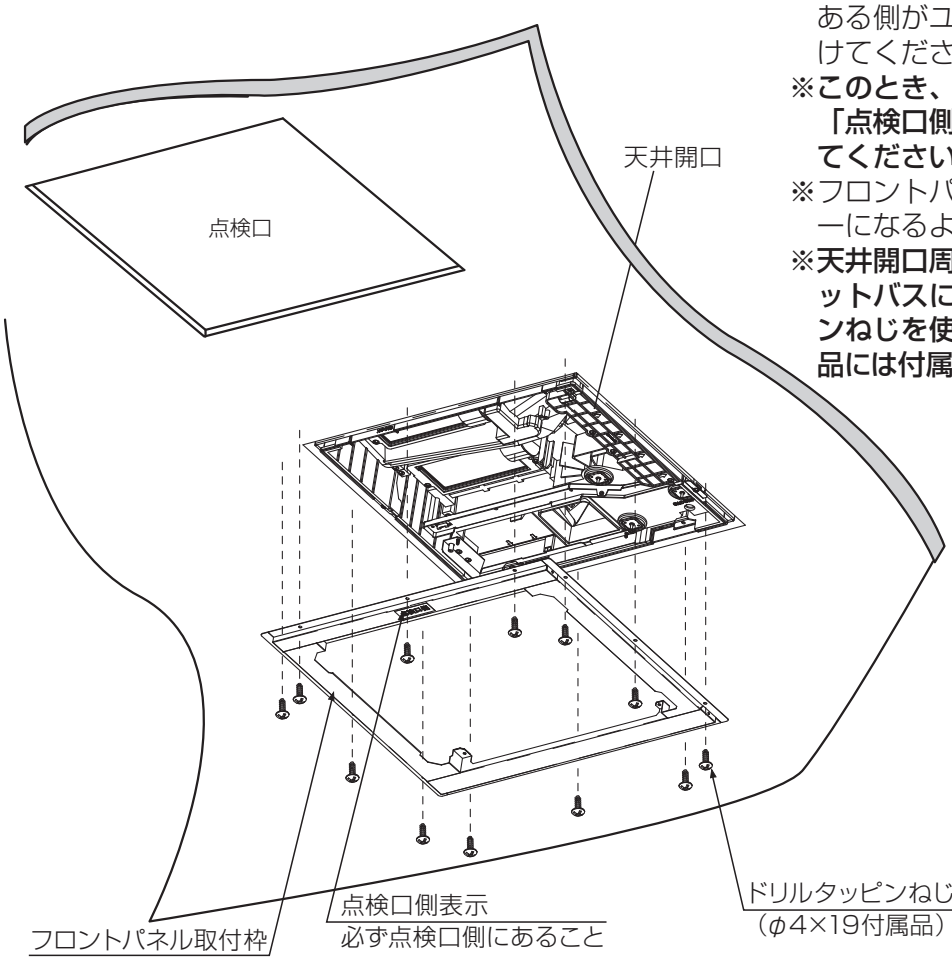
●フロントパネル取付枠を付属のドリルタッピンねじ（φ4×19）12個でユニットバス天井に取り付けます。

※フロントパネル取付枠にシール材（黒）が貼ってある側がユニットバス天井側にくるように取り付けてください。

※このとき、フロントパネル取付枠に表示してある「点検口側」が必ず点検口側になるように設置してください。

※フロントパネル取付枠は天井開口に対してセンターになるように位置決めして取り付けてください。

※天井開口周囲にめねじが取り付けられているユニットバスに施工する場合は、付属のドリルタッピンねじを使用せず、トラス小ねじ(M4×16)(本製品には付属していません)で固定してください。

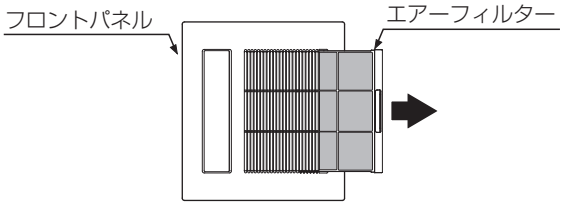


お願い

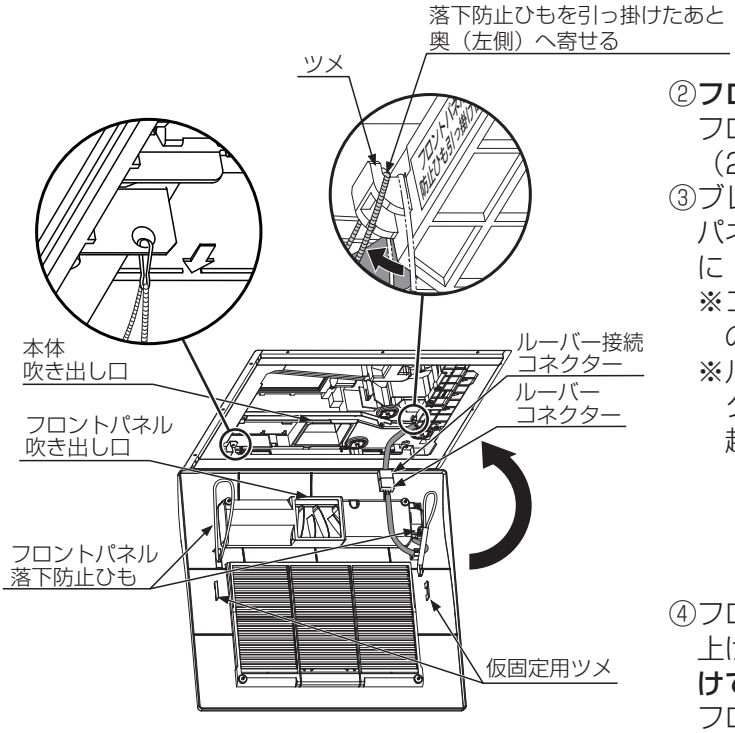
フロントパネル取付枠と、天井面および本体とのすき間がないことを確認してください。
すき間があると天井裏に湿気が漏れるおそれがあります。

フロントパネルの取り付け（続き）

フロントパネルの取り付け

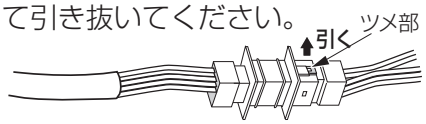


①フロントパネルからエアーフィルターを取りはずします。



②**フロントパネル吹き出し口が本体吹き出し口と合う向き**で
フロントパネル落下防止ひもを本体のツメに引っ掛けます。
（2か所）

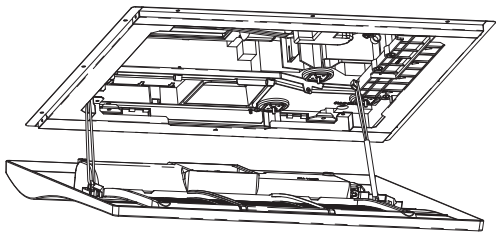
③ブレーカーがOFFになっていることを確認してから、フロントパネルのルーバーコネクターを本体のルーバー接続コネクターに「カチッ」と音がするまで差し込んで接続してください。
※コネクターを接続する前に、本体のルーバー接続コネクターのリード線を止めているテープをはがしてください。
※ルーバーコネクターをはずすときは、ルーバー接続コネクターの橙色のツメを「カチッ」と音がするまで手前に起こして引き抜いてください。

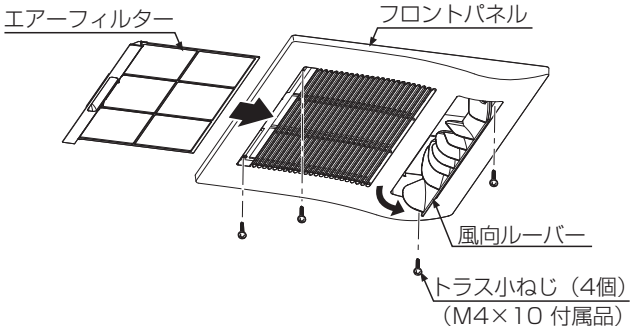


④フロントパネルをフロントパネル取付枠に合うように持ち上げて押し付けます。（**「カチッ」と音がするまで押し付けてください。**仮固定されます）
フロントパネルの仮固定用ツメ（2か所）が引っ掛かります。
（フロントパネルとユニットバス天井の間でリード線をかみ込まないように注意してください）

お願い

フロントパネル落下防止ひもが確実に取り付けられているか確認してください。





⑤風向ルーバーを垂直になるまで、手でゆっくり開きます。
⑥付属のトラス小ねじ（M4×10）4個でフロントパネルを固定します。
※ねじの締め込みは必ず手締めでおこない、締め込みすぎに注意してください。締め込みの目安はフロントパネルとユニットバス天井のすき間がなくなった状態で、それ以上のねじ締め込みをやめてください。
⑦風向ルーバーをゆっくり閉じます。
⑧エアーフィルターを取り付けます。

試運転調整

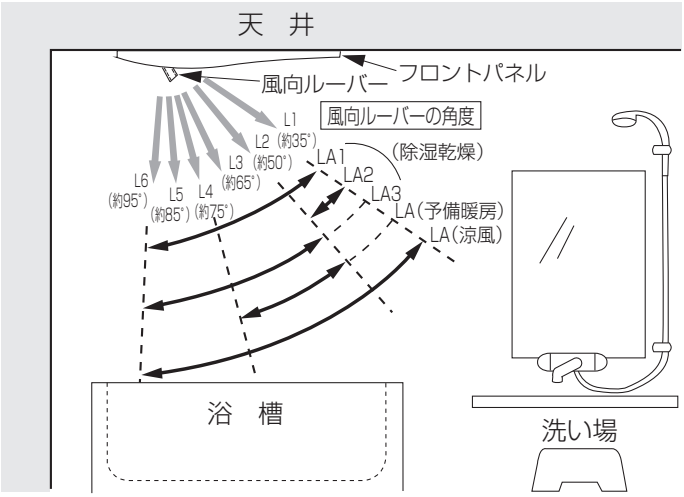
試運転の前に

●ユニットバスのドアや窓は必ず閉めてから試運転をおこなってください。閉めない場合、誤判定の原因になります。

●サニタリー&バスコンディショナーの漏電ブレーカーをONにしてください。

※漏電ブレーカーをONにすると風向ルーバーがリセット動作をおこない、リセット位置（閉位置）になることを確認してください。

●各運転において、異常音、振動、水漏れ、その他の異常のないことを確認してください。
また残り時間表示部に異常表示がないことを確認してください。
（異常表示については☞30ページ）



操作		確認事項
除湿乾燥運転	① 除湿乾燥 ボタンを押す。	・除湿乾燥ランプ点滅→点灯
		・残り時間“2:00”（電源投入時）表示
		・風向ルーバーが開き風が出ることを手で確認
	② ▼ または ▲ ボタンを押す。	・残り時間表示が変わることを確認
	③ 風向 ボタンを押す。	・押すたびに残り時間の表示部の表示が →L3→ L4 →L5 →L6 →LA1→LA2→LA3→L1→L2→ （電源投入時） と切り換わることを確認
		・風向ルーバーの角度が変わることを確認
		・Ｌ1～Ｌ6のときは「固定」ランプが、LA1～LA3のときは「スイング」ランプが点灯することを確認
予備暖房運転	予備暖房 ボタンを押す。	・予備暖房ランプ点滅→点灯
		・残り時間“0:30”（電源投入時）表示
		・風向ルーバーが開き風が出ることを手で確認
涼風運転	涼風 ボタンを押す。	・涼風ランプ点滅→点灯
		・残り時間“0:30”（電源投入時）表示
		・風向ルーバーが開き風が出ることを手で確認
換気運転	① 換気 ボタンを押す。	・換気「強」ランプ点灯
		・残り時間“4:00”（電源投入時）表示
		・風向ルーバーが 閉まることを確認
	② 換気 ボタンを押す。	・換気「弱」ランプ点灯
		・換気弱運転に切り換わることを確認 （換気ファンの運転音が小さくなることを確認）
	③ 切 ボタンを押す。	・すべての表示が消灯することを確認
		・機器が停止することを確認
24時間換気	① 24時間換気 ボタンを押す。	・24時間換気「標準」ランプ点灯
	② 24時間換気 ボタンを押す。	・24時間換気「冬期」ランプ点灯
		・24時間換気冬期運転に切り換わることを確認 （換気ファンの運転音が小さくなることを確認）
	③ 浴室切 ボタンを押す。	・「停止中」ランプ点灯
		・残り時間“3：00”（電源投入時）表示
	④ 24時間換気 ボタンを3秒以上押す	・すべての表示が消灯することを確認
		・機器が停止することを確認

試運転調整(続き)

操　作		確　認　事　項
外部換気スイッチによる換気 （外部換気スイッチを接続した場合のみ）	①外部換気スイッチを「入」にする。	・換気ファンが運転することを確認 （コントローラーには何も表示しません）
	②外部換気スイッチを「切」にする。	・機器が停止することを確認 （ただし、外部換気スイッチの遅れ停止を設定している場合は、設定時間経過後停止します。（出荷時設定3分））

試運転中に

● 各運転中に残り時間表示部に異常表示がないことを確認してください。
異常表示された場合は、下記表を確認してください。

異常表示

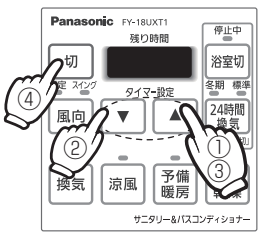
エラーコード	異常項目	処　置
F01	コントローラー通信異常	コントローラー基板、本体基板、コントローラー線の接続を確認
F03	マイコン間通信異常	本体基板、換気ボックス側基板、信号中継線の接続を確認
F11	浴室温サーミスター異常	浴室温サーミスター、本体基板の確認
F14	吐出温サーミスター異常	吐出温サーミスター、本体基板の確認
F16	蒸発器温サーミスター異常	蒸発器温サーミスター、本体基板の確認
F18	吸気温サーミスター異常	吸気温サーミスター、換気ボックス側基板の確認
F21	換気ファンモーター異常（※1）	換気ファンモーター、換気ボックス側基板、本体基板の確認
F22	循環ファンモーター異常（※1）	循環ファンモーター、本体基板の確認
F51	圧縮機電流異常	圧縮機、本体基板の確認
F53	吐出管温度過昇保護	圧縮機の確認
F55	排水異常	排水勾配の確認、ドレンセンサー、本体基板の確認
F56	圧縮機高電流異常	圧縮機、本体基板の確認
U04	フィルター清掃表示	フロントパネルのエアーフィルター、副吸込グリルのフィルターの清掃

（※1）異常表示までに約１分かかります。

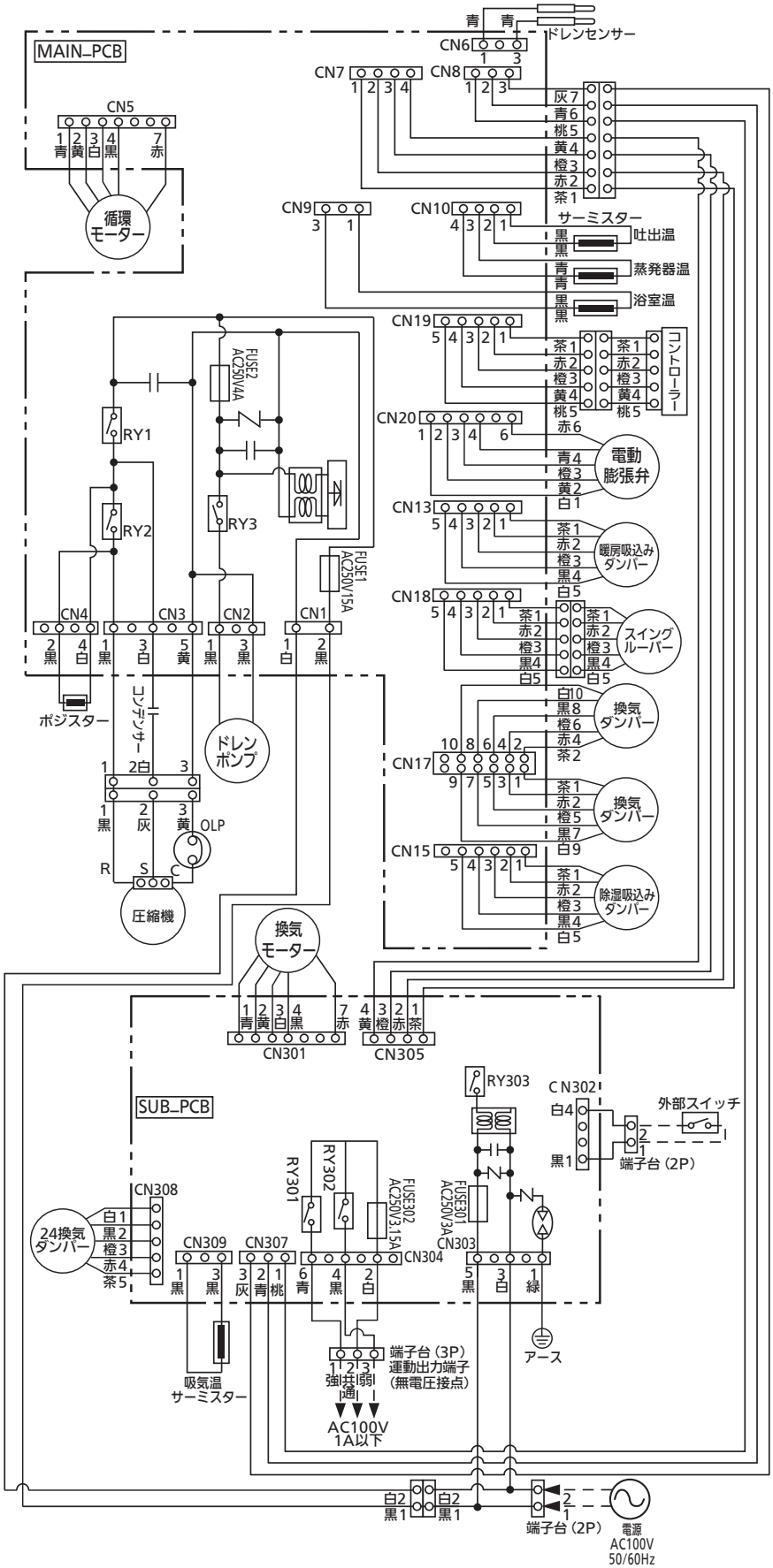
試運転終了後に

● 機器停止後、漏電ブレーカーをOFFにしてください。
（試運転で変更した残り時間設定、風向ルーバー位置を初期設定値に戻すため）

■エラーコードの記憶について（コントローラーに過去5回分のエラーコードを表示させることができます）

	操　作	確　認　事　項
	機器停止中に ①［▲］ボタンを4秒以上押す。	・最後に記憶されたエラーコードを表示 （記憶がない場合には“ーーー”と表示）
	②［▼］ボタンを押す。	・過去5回まで記憶されたエラーコードを順番に表示
	③エラーコードを表示中に ［▲］ボタンを4秒以上押す。	・エラーコードをすべて消去（消去後は“ーーー”と表示）
	④［切］ボタンを押す。	・消灯します

電気回路図


MAIN-PCB
SUB-PCB
CN1
CN2
CN3
CN4
CN5
CN6
CN7
CN8
CN9
CN10
CN13
CN15
CN17
CN18
CN19
CN20
CN301
CN302
CN303
CN304
CN305
CN307
CN308
CN309
循環モーター
ドレンセンサー
サーミスター
吐出温
蒸発器温
浴室温
コントローラー
電動膨張弁
暖房吸込みダンパー
スイングルーバー
換気ダンパー
除湿吸込みダンパー
ポジスター
コンデンサー
ドレンポンプ
OLP
圧縮機
換気モーター
RY1
RY2
RY3
RY301
RY302
RY303
FUSE1 AC250V15A
FUSE2 AC250V4A
FUSE202 AC250V3.15A
FUSE301 AC250V3A
外部スイッチ
端子台 (2P)
24換気ダンパー
吸気温サーミスター
端子台 (3P)
運動出力端子
(無電圧接点)
AC100V
1A以下
アース
電源
AC100V
50/60Hz

設置確認チェックリスト

項　　目	内　　容	参照ページ	チェック欄
機　器　設　置	本体天面内部の緩衝材（ダンボール）は取り除かれていますか。	8ページ	
	ユニットバスの選定は適切ですか。	10ページ	
	製品を取り付ける天井開口や点検口の位置、寸法は適切ですか。 製品の取り付け位置が適切でないと、十分に性能を発揮できないことがあります。	11ページ	
	本製品は吊り施工が必須です。 ホールインアンカー、レースウェイ、梁への吊りボルト固定などは機器の重量に対し十分な強度を確保していますか。	11～12ページ	
	付属の防振金具は吊りボルトに取り付けられていますか。	12ページ	
	スライド固定金具および固定板は確実に本体に取り付けられていますか。	14､27ページ	
	換気ボックスの排気方向を変更した場合、コントローラーで設定変更をしましたか。	17ページ	
	換気ボックスを本体に取り付けた状態で、吊り枠および本体が天井開口に接触していませんか。	18ページ	
	副吸込グリルはトイレや洗面所、リビングなどの居住空間の2か所に取り付けられていますか。	19～20ページ	
	フロントパネル取付枠と、天井面および本体とのすき間はありませんか。 すき間があると天井裏に湿気が漏れるおそれがあります。	27ページ	
	フロントパネルの落下防止用ひもは、確実に本体に取り付けられていますか。（2か所）	28ページ	
ド レ ン 工 事	付属のドレンホースは本体に接着剤などで取り付けられていませんか。 ドレンホースが取りはずせなくなると、本体をおろせません。	15ページ	
	排水は確実におこなわれていますか。 上り勾配や山越え、たるみや抜けはありませんか。	15～16ページ	
	ドレン配管は断熱されていますか。	15～16ページ	
ダ ク ト 工 事	吸気ダクト（2本）と排気ダクト（1本）は確実に接続されていますか。	19～20ページ	
	ダクトの接続は風漏れなどなく確実におこなわれていますか。	19～20ページ	
	チューブ、ダクトの曲がりやつぶれはありませんか。	19～20ページ	
	排気ダクトには断熱チューブまたは断熱処理が施されたダクトが使用されていますか。	19～20ページ	
	吸気ダクト、排気ダクトは下り勾配が確保されていますか。	19～20ページ	
	屋外の換気口には指定のパイプフードが使用されていますか。 （防虫網付のパイプフードは使用しないでください）	19～20ページ	
電　気　工　事	機器本体側から出ている電線は、間違いなく所定の位置に接続されていますか。	21～22ページ	
	接続電線は、確実に固定されていますか。	21～22ページ	
	D種接地工事（アース線接続）はおこなわれていますか。	21～22ページ	
	電源電圧はAC100Vですか。	21～22ページ	
	専用の漏電ブレーカーは取り付いていますか。	21～22ページ	
試　運　転	各運転は確実におこなわれていますか。	29～30ページ	
	コントローラーのランプ、表示は正常ですか。	29～30ページ	
	風向ルーバーの動作は確実におこなわれていますか。 またスムーズに動作しますか。	29～30ページ	
	異常音、異常振動はありませんか。	29～30ページ	

パナソニック株式会社
パナソニック エコシステムズ株式会社
〒486-8522　愛知県春日井市鷹来町字下仲田4017番　TEL(0568)81-1511

Ⓒ Panasonic Ecology Systems Co., Ltd. 2011

18UXT1418F-P0311-6052